

FFG調査月報

MONTHLY REPORT

10

2021.OCT
VOL.140

Top Interview

壽海運 株式会社 取締役会長 板床 定男 氏 ・ 代表取締役社長 板床 慎太郎 氏

城見櫓 共和観光 株式会社 代表取締役 林 祥増 氏

宅島建設 株式会社 代表取締役 宅島 寿孝 氏

 福岡銀行

 熊本銀行

 十八親和銀行



懐かしい
情景を
探して

Looking for a nostalgic scene

石に刻まれた 記憶



▲押戸石



▲上.くじゅう連山／下.阿蘇の山並み

●押戸石の丘

■住所：熊本県阿蘇郡
南小国町中原511

■入場料：
大人…200円
小中学生…100円



阿蘇の大観峰の北西側、「押戸石の丘」には巨石の列石遺構が残る。草原が広がる丘陵の頂上付近にのみ、9組の巨石が集まっている。その中で最大の「押戸石」は高さ5.5mのピラミッド形で頂点は北極星を指し、方位磁石を近づけると針が回りはじめる。また、鏡石と名付けられた石には4千年前のシュメール文字が刻まれているという。

この場所が宗教的な場所か天文学の設備だったかは不明だが、きつと特別な場所だったに違いない。将来この時代に暮らしていた住居跡でも発見されれば、謎が明らかになるかもしれない。

360度の展望がひらけた頂上からは、北東に住、南東に阿蘇の山々が望める。沈む夕日を眺めながら、どんな人々が存在していたのか想いを巡らせるのも楽しい。

(文・阿井川 圭)

CONTENTS



懐かしい情景を探して 石に刻まれた記憶

Top Interview

- 2  福岡銀行
寿海運 株式会社 取締役会長 代表取締役社長
板床 定男 氏 ・ 板床 慎太郎 氏
- 8  熊本銀行
城見櫓 共和観光 株式会社 代表取締役
林 祥増 氏
- 14  十八親和銀行
宅島建設 株式会社 代表取締役
宅島 寿孝 氏
- 22 日本初の「SDGs商店街」として
持続可能なまちづくりに取り組む
魚町商店街振興組合 理事長 梯 輝元 氏
- 27 FFG×不動産 **NEW!**
セントシティ(北九州市)
- 30 FFGで始まるビジネスマッチングのカタチ
BugsWell 合同会社
株式会社 ウラノ
- 36 START UP Company とどける 株式会社

- 38 地域とつながるFFG連携プロジェクト
地域産品の販路拡大・デジタル支援の取り組み
- 40  地域と共生する FFG
熊本県 小国町
- 44 九州まち歩き
長崎県 佐世保市(第2弾 早岐エリア)
- 46 台北駐在員報告
台湾の半導体産業について
- 50 2021年度 九経調経済講演会 講演録
九州地域におけるDX加速政策のヒント
～DXの本質とバンカーへの期待～
株式会社 野村総合研究所 主席研究員 藤野 直明 氏
- 62 母校の逸品 福岡県立 東鷹高等学校
田川めし ビビンバの素
- 63 釣り道 水郷・柳川編
- 64 九州の星 ドローンフォトグラファー 葛城 和久
- 66 長崎だより
僕たちが住みたい「みなとまち」をつくる
—あいだをつなぐみなと SASEBO RE PORT—
一般社団法人 離島振興地方創生協会の活動支援

バックナンバー
のお知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。



今月の表紙 天神ビジネスセンター(福岡市中央区)

表紙の写真は、福岡市が推進する「天神ビッグバン」の第1号案件として福岡地所が再開発した天神・明治通りのオフィスビル・天神ビジネスセンターです。

免震構造や最先端の感染対策を標準装備した九州初のオフィスビルで、地上19階建て、ワンフロア最大716坪の無柱空間を有し、地下で福岡市地下鉄空港線の天神駅に直結しています。

新たな天神のランドマークの誕生です。



福岡銀行

環境に配慮し、海と共に歩む。

ことぶきかい
うん
寿海運株式会社

取締役会長

いたどこ
さだお
板床定男氏

代表取締役社長

いたどこ
しんたろう
板床慎太郎氏

取引店／福岡銀行大牟田支店

十八親和銀行本店営業部
十八親和銀行久留米支店

■会社概要

創業:1918年／設立:1969年／所在地:福岡県大牟田市／資本金:2,300万円／従業員:19名(2021年8月末現在)／事業内容:外航船舶貸渡業、海上貨物運送業／グループ企業:祐徳近海汽船株式会社、株式会社ライジングネクスト、KOTOBUKI SHIPPING CORPORATION, S.A.(パナマ)、YUTOKU SHIPPING CORPORATION, S.A.(パナマ)、MERCURY CARRIER CORPORATION, S.A.(パナマ)、合資会社丸井海運商会

会社ホームページ
(祐徳近海汽船)は
こちらからどうぞ!





新造船「KAURI(カウリ)」デッキ最上階にて(左から板床慎太郎社長、柴戸頭取、板床定男会長)

三池炭鉱の積み出し港で 海運業を開始

江戸期に石炭採掘が始まり、明治政府が官営事業として力を注いだ三池炭鉱。「月が出たでた」の歌い出しでお馴染みの「炭坑節」にも登場し、最盛期には全国出炭量の10%を超える年間657万トンを掘り上げたという隆盛の一方で、その歴史においては、長期にわたる労使間の対立が表面化した「三井三池争議」や、大勢の死傷者が出て戦後最大の炭鉱事故となった炭塵爆発事故、有明鉱火災事故といった痛ましい出来事もありました。

三池炭鉱は1997年にその役割を終えて閉山しますが、その遺構は国の重要文化財や登録有形文化財、さらには世界文化遺産にも登録されており、ここ大牟田の歴史を語るうえで欠くことのできない存在となっています。当社のルートもまた、この三池炭鉱と深い関わりがあるのです。

私（慎太郎社長）の祖父・末太郎は、島原半島最南端にある天然の良港・口之津港で、大牟田港から石炭を運ぶ団平船の船員として

従事していました。三池港の開港により石炭積み出しの拠点が三池港に移るに伴い、祖父は、1918年に独立し、創業しました。

そして戦後の1953年に合資会社丸井海運商會を興すと、父・定男（現会長）は1958年、学校を卒業するとともに家業である同社に入社。そこから多くの苦難困難を乗り越えつつ、海運事業に邁進していきます。

木造船が主流だった時代にいち早く、西日本初となる鋼船を建造して注目を集めるなど徐々に社業を軌道に乗せていきます。祖父は父を含む息子3人に一隻ずつ船を任せ、三井一筋であった創業者の意志は次世代にしっかりと引き継がれることとなり、人との出会いと縁を大切に、当社およびグループ会社の経営の礎が築かれました。

将来を見越して

外航海上輸送事業へ進出

当社の事業がまだ石炭輸送が主軸であった1980年、セメント専用船を建造することを決意します。炭鉱の先行きを見据え、事業



5



3



1



6



4



2



板床慎太郎社長

の多角化を図つての決断でした。その後も、コンテナ船から鋼材船、製紙専用船等の建造にも乗り出し、また冷凍コンテナ船を建造して鉄道輸送に対抗して神戸・博多間を一昼夜で航行できる体制も整えました。さらには、三池港を拠点として、大川の家具などの物流に貢献し、地場産業の活性化にも努めてまいりました。

いよいよ三池炭鉱の閉山が迫ってきた1995年には、大型船を建造し、当社初となる外航海上輸送への進出を果たします。当社の現在の主な事業でもある「外航船舶の貸渡業」とは、荷主の要請でさまざまな貨物を輸送するオペレーターに対して、自社が所有する

外航船を貸し出す事業です。

船舶の貸し出しには2種類の契約方法があり、船に船員を乗り組ませた形で一定期間、先方の利用に供する「TC(定期備船)契約」と、船員は付けずに船舶のみを貸し出す「BBC(Bare Boat Charter)契約」です。現在当社を含むグループで運航中の外航船13隻のうち9隻が定期備船契約で、4隻がBBC契約となっており、現在さらに2隻の外航船を建造中です。

多様な船舶を航行させる 海上部門と 地域環境に貢献する陸上部門

外航海上輸送に進出した後も、1998年には内航新造船の2隻同日進水を果たし、内航海運事業を推し進めます。また2003年には、大牟田市の委託を受けて一般廃棄物の収集運搬を行う陸上業務に進出して地元の公衆衛生の向上に尽力する一方で、九州地方整備局より調査観測兼清掃船の運航委託を受けて有明海、八代海の海洋環境向上に努める、



1.新造船「KAURI」命名・引渡式の祝賀イベント(写真は餅まき)／2.命名式／3.くす玉が割られ、風船が舞い上がる／4.5.「KAURI」見学風景／6.警笛を鳴らす柴戸頭取／7.「KAURI」甲板／8.9.社員一同で「KAURI」を見送り／10.保有船の一例:自動車運搬船／11.企業メッセージ



左から板床慎太郎社長、板床定男会長、柴戸頭取、立木支店長(福岡銀行)

といった具合に多方面へと事業領域を拡大していきました。

翌2004年は、当社初のプロダクトタンカー(石油製品を輸送するタンカー)を始めとして、内航船、近海船を含め、3隻の新造船を建造しました。2011年には、ばら積み船(主に石炭や鉄鉱石を輸送する船)の中で最大級のケーブサイズ型貨物船を初建造しました。2013年には自動車専用船を購入し、2015年にはさらに2隻のケーブサイズ型ばら積み船を購入するに至りました。そして同年には、九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所の港湾業務艇の運航委託を受けています。

海運事業と並行させながら、2013年に大牟田市の許可・登録を受けて浄化槽の維持管理および清掃を開始する傍ら、太陽光発電事業にも参入して発電所を竣工しました。

このように現在、当社はグループ会社と連携しながら、外航船13隻の所有と内航船2隻の運航管理を担当する海上部門と、地元の一般廃棄物処理とメガソーラー事業などを



板床定男会長

手がける陸上部門の両輪で、事業を多角的に展開しています。

国際情勢や世界経済に関わる

海運事業の責任と姿勢

昨年、私は父から代表取締役社長の職を引き継ぎました。これまでご紹介してきた内容からもわかりただけかと思いますが、外航船舶の貸渡業は、多額の資金を必要とする事業であり、投資すべき案件の見極めが重要な鍵となります。そして、海運業を取り巻く環境は、常に激しく変化し、鋼材価格の上昇、環境保全のための造船規制強化などに対応して、

厳しい経営判断を迫られる場面が、年々増加しているように感じます。例えば、自動車専用船を建造したとして、もしも数年後に電気自動車の占める割合が一気に増えた場合、ガソリン車より重量のある電気自動車に対応する仕様の専用船に切り替える必要が生じるかもしれません。そういった意味では、海運業界に生きる私たちは、常に岐路に立たされているともいえます。

また、大規模輸送で行われる外航海上輸送は、ひとたび海難事故に巻き込まれると、国際情勢や世界経済に大きな影響を与えます。と同時に、船の運航に関わったあらゆる企業は、責任と姿勢を問われることになります。そのため、当社のような船舶貸渡業を担う会社は、知見を高める努力を積み重ねて、多くの信頼を得られる存在であり続けなければなりません。

お取引先である海運会社、資金面でのパートナーである銀行、造船所、そして地域の皆様から、広く厚い信頼を集められる組織となれるよう、日々の活動を通じて成長していきたいと考えています。

■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 柴戸 隆成

三池炭鉱の石炭積み出しに端を発し、今では自動車や鋼材など、さまざまな物資の外航・内航海上輸送事業を担われ、これまで永く地元・大牟田の発展にご尽力されてこられました。

船舶事業のみならず、廃棄物処理、海上清掃、港湾整備等にも従事されるなど、地域や行政機関の要請に応え、地域社会に貢献する事業分野にも領域を拡げておられます。

今後も国際的な物流を支えつつ、地域社会への寄与につながる活動を通じて、ますます発展されることを祈念いたします。





 熊本銀行

名城を望む極上の空間。
山海の恵みとおもてなしの心で、
愛される日本料理店へ。

しろ み やぐら きょうわ かん こう
城見櫓 共和観光 株式会社

代表取締役
はやし しょうぞう
林 祥増 氏

取引店／熊本銀行 下通支店

■会社概要

設立:1969年／所在地:熊本市中央区／資本金:
5,000万円／従業員:53名／事業内容:飲食業
(日本料理店「花畑御殿 城見櫓」経営)

店舗ホームページは
こちらからどうぞ！





「花畑御殿 城見櫓」前(左から林社長、野村頭取)

ナイトクラブとして創業 海外での貴重な体験

未曾有の被害をもたらした熊本地震から5年。「花畑御殿 城見櫓」は今春、華々しくよみがえりました。眼前に広がる熊本城の雄姿とともに新たな歴史に向かって踏み出しています。

私の祖父母は中国・福建省出身の華僑で、1920年前後に日本に渡りました。決して裕福な家庭などではなく、熊本では山を越えた先の地域まで衣料等の生活用品を行商するなどして生計をたて、少しずつ蓄財したそうです。祖父は父・継發(現・当社会長)ら兄弟とともに、熊本でスーパーマーケット「ニコニコ堂」を創業すると、ただちに成功を収め、出店攻勢をかけます。圧倒的なビジネスセンスを持つ父はそこで共和観光株式会社を設立し、熊本市内の繁華街でナイトクラブ「スピカ」をオープンしました。今から50余年前の1969年のことでした。

当時、私は小学生で、両親があまりの忙しきでかまってくれなかったことから、この頃始めた野球に打ち込んでばかりいました。中学・高校は地元の九州学院に進学し、強豪校で最後まで野球をやり通しました。そういった経験も今の私の糧となっているのではないかと思います。

高校を卒業すると、海外を自分の目で見て回ることを決意します。祖父母の故郷でもある福建省をはじめ東南アジアやアメリカなど世界各地をひとりで、かつ働いて収入を得ながら巡りました。この海外で生活した経験のおかげで「いざとなったら何とかなる」という、勝負の度胸とビジネスの勘を身に付けられたのではないかと思います。

カラオケパブから日本料理店へ 積もる父との確執

20歳で帰国した際、空港からの帰り道で父からカラオケパブを運営するよう命じられました。当然初めての経験ではありましたが、どうしたら繁盛するか店づくりや料金設定などを考えると同時に、同級生にスタッフを頼むなどしてわずか1か月後の21歳の誕生日にオープンしました。すぐに女性客から人気を得て、毎日行列ができるほどの賑わいとなり、繁華街中のカラオケ店のお客様をすべて集めたかのように連日盛り上がっていました。

ところが私が23歳の時に、父が既に購入していた熊本城長堀前の日本旅館があったこの土地に当時5億円ほどの建設費をかけてビルを建設し、ナイトクラブや日本料理店を混在して



5



3 1



6



4 2





林社長

入居させ、その日本料理店の総支配人になることを私に命じたのです。折しもカラオケパブを自分の思い通りに運営して軌道に乗せていた時期に、経験のない飲食店の総支配人を命じられたことで、父との確執が生まれはじめます。私が命名した「城見櫓」ですが、父の経営方針に従うほかありません。名の通った料理人を置いていたためお料理自体は良かったものの、お客様の半分は熊本城が見えにくい店づくりで、お客様をお見送りする際にお顔を伺うと、とても満足していただけのように感じられませんでした。それでも父から業績の全責任を問われ、しばしば衝突しそうになることもありましたが、とても父に逆らうことなどできませんでした。

私が30歳の時、ついに父から逃げるように熊本を離れました。これまで修業をしたことの

なかった私が東京都内の飲食店で修業することにしたのです。それも毎日朝から飲料配達、居酒屋、焼肉レストラン、ナイトクラブ等で皿洗いや働き始めました。そこから休みなく必死で働き、大赤字の焼肉レストランを1か月で黒字転換させるなどの実績を残しました。それから福岡、熊本へと修業場所は変わりますが、熊本では名の通った2店舗のカラオケボックスをプロデュースするなどの成功を収めました。

城見櫓に戻ったのは39歳の時。生まれ変わった私は頭を丸めて厨房の仕事から、文字通り一からやり直す覚悟でした。しかしそこで見た光景は東京の焼肉レストランと変わらない状況。このままではすぐに潰れてしまうと考え込んでいた時、アルバイトとして一緒に皿を洗っていた坂元（現・取締役営業部長）が、「支配人、この立地がもったいない。せめて観光料亭にしませんか」と言うのです。その言葉に心打たれた私はすぐに決心をし、坂元とともに新たな城見櫓の構築を目指しました。

まず手始めに父を辛抱強く説得して経営方針を変え、食事を主体とする日本料理店に改装。多くのお客様に熊本城の光景を楽しんでもらえるようリーズナブルな料金設定にし、観光客を呼ぶ際には前職でツアー営業をしていた坂元が大いなる力を発揮してくれました。



11 9



10



7



8



1.2.対談風景／3.4.見学風景／5.3階個室宴会場「銀麟」／6.郷土料理会席一例／7.5階メインホール「城宴」／8.婚礼料理一例／9.屋上庭園夜景／10.正面玄関夜景／11.店舗メッセージ



屋上庭園「天城」にて(左から^{きゆう}奇能部長、林芽衣マネージャー、林奈美部長、林祥増社長、野村頭取、大原支店長(熊本銀行)、坂元部長、^{なにかわ}何川主任)

九州新幹線が2004年に部分開通、2007年に熊本城築城400年、2011年に九州新幹線全線開通と、国内外から多くの観光客が熊本に訪れるようになり、当社の業績も年々改善。ついには年間9万人ものお客様にご来店いただけるようになりました。

熊本城の復旧とともに 被災5年目に再建

2016年4月、最大震度7の熊本地震によつて、熊本城は国指定重要文化財の長堀をはじめ、櫓や天守閣など城全体が大きな被害を受けました。城見櫓も道路との間に段差が生じ、ガラスが割れ、調理場のガス管も寸断したことから営業できずに、父は閉店を決めました。会社解散となる日、私を含めた全従業員が解雇されることになり、従業員は皆涙を浮かべていましたが、私は「俺が必ず店を再建し、皆に帰ってきてもらう」と固く誓ったのです。

その後、ビルの被害状況を詳しく調査すると、構造自体に問題はなく、補修をすることで営業を再開できることが確認されました。そこで新たに運営会社「祥福」を設立して再建への一歩を踏み出しました。7月下旬には1、2階部分で店を再開し、10月には全館で再開を果た

しました。

父はこんな私の仕事ぶりを見ていたのでしょう。「社長をせんか」と言う父の言葉に押されて2018年2月、私は共和観光株式会社の社長に就任しました。

2019年4月、国の復旧補助事業の対象になったこともあり、既に購入していた隣接地と合わせ、約10億5,000万円をかけて1階が調理場、2階がレストラン、3・4階が宴会場、5階が結婚式のできる大ホール、6階が迎賓庵と展望所とする新しいビル建設に着手しました。どの部屋からも熊本城の全景を見られるように工夫し、地震からちょうど5年に当たる2021年4月14日についてリニューアルオープンを果たしました。

父はそれまで私を褒めたことは一度もありませんでしたが、この時初めて「よくやったな」と言ってくれました。今振り返ると、父の背中を見ながら人に対する気遣いや気持の持ち方、圧倒的なビジネスセンスを学んだと思っています。

お客様から愛される

お店づくりを目指して

熊本城は、肥後熊本藩初代藩主加藤清正が心血を注いで築いた名城であり、「森の都・

熊本」のシンボルです。昼はまばゆい陽光、夕方は鮮やかな夕日の中で輝き、夜はライトアップによって幻想的な姿を見せます。樹木に囲まれた城郭は春夏秋冬、四季折々の姿を見せ、見飽きることはありません。

城見櫓では、伝統と格式を大事にする日本料理と、歴代の藩主を喜ばせた山海の恵みあふれる郷土料理を、「おもてなしの心」で提供しています。

お城の壮麗なたたずまいとともに歴史のロマンを五感で味わっていただける場として、一度お越しただけですと必ずリピートされることでしょう。完全予約制にしていますが、予約が途切れることはなく、おかげさまで安定した経営を続けています。

熊本城は新型コロナウイルス防止のためにしばらく閉鎖されていましたが、今年7月に再開され全国から多くの観光客が来城されていることから、当店もこれまで以上に観光客の皆様へのアピールに力を入れています。また、結婚式をはじめとして若い方々のお祝い事にも使っていただき、より多くの地元のお客様から愛され親しまれるお店づくりをしたいと思っています。

これからも熊本の心と誇り「城郭の四季」で、熊本城を訪れる皆さまをオンリーワンの郷土料理、日本料理でおもてなしさせて頂きます。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳

かつて熊本最大のスーパーマーケットチェーンを経営された林会長が手掛けられた日本料理店「城見櫓」を受け継ぎ、林社長はご苦勞の末にも卓越した経営手腕で、多くのお客様におもてなしを実践してこられました。5年前の熊本地震では大きな打撃を受けながらも、それを見事に乗り越えられ、この春ついにリニューアルオープンを果たされています。

眼前に熊本城を望む絶好のロケーションを活かし、これからも熊本城とともに輝き続け、多くのお客様に美しい熊本城の四季の移ろいを感じていただくことを期待しています。





トップに聞く!

十八親和銀行

「企業は、人だ。」

人と人との絆を大切に

100年企業を目指す。

たくしまけんせつ
宅島建設株式会社

代表取締役
たくしまとし
宅島 寿孝氏

取引店／十八親和銀行 小浜支店

■会社概要

創業:1946年／設立:1951年／所在地:長崎県雲仙市／資本金:9,000万円／社員:90名(グループ全体:370名)／事業内容:総合建設業、一級建築士事務所、不動産賃貸業、宅地建物取引業／事業拠点:(本社)雲仙市(営業所)長崎市、島原市、諫早市、南島原市／関連会社:大石建設株式会社、大起建設株式会社、株式会社クリーン雲仙、株式会社東邦、株式会社プラス建販、株式会社ランドトラスト他関連3社

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本社前(左から宅島社長、森頭取)

製塩業から建設業へ 業容の拡大を続け、 長崎県内の基盤を支える会社へ

当社は、もともと鉄工所を営んでいた祖父・宅島満壽美^{ますみ}が、1951年に「宅島塩業有限公司」を設立したのが始まりです。その頃の小浜の海岸一帯は、温泉熱を利用した製塩業が盛んで、約50箇所の工場が林立。祖父も時流を読み、製塩業へ舵を切ったそうです。しかし、温泉の資源確保と、時代の流れとともに製塩業が衰退していったことから、1956年に建設業に進出し「宅島建設興業有限公司」に社名を変更しました。当時、社長である祖父が陣頭指揮をとり、各種工事へ積極的に従事。昼夜を問わない献身的な働きぶりが評価され、業容は拡大し続けたそうです。

とにかく現場主義で、厳しかったそうですが、厳しいことを言った後は、現場に差し入れを行うような優しさも持ち合わせ、昔気質でありながらもとても頼りになり、信頼される人だったと聞いています。

そして、1970年に宅島建設株式会社と社名を変えた当社をさらに大きくしたのが、

私の父であり、現グループ会長の宅島壽雄^{じゅうお}です。厳しい祖父のもとで仕事を覚えた父は、病気がちになった祖父の代わりに早くから会社を任されていたそうです。オイルショックをなんとか乗り越え、1979年に代表取締役就任。現在の本社用地になる約5千坪の埋め立て工事、小浜マリーナ約3万坪の埋め立て工事、雲仙・普賢岳噴火による災害復旧工事など、島原半島の大規模な社会基盤事業に携わるようになりました。父の時代にM&A（合併・買収）によって、幅広くグループ会社が増え、長崎県内をカバーするようになっていきました。ただし、いつも話はこちらからではなく、向こうから。頼られると手を差し伸べてしまう、利益よりも人間的なつながりを大事にする父を頼ってきたのだと思います。

また、その拡大のなかで、島原半島のみならず長崎県内外のさまざまな事業に関わってきました。大型ショッピングモールなど他業種にも進出したこともありましたが、試行錯誤を繰り返しながら今に至っています。現在、グループ会社は、大石建設株式会社をはじめ、産業廃棄物などを扱う株式会社クリーン雲仙、土木・舗装の大起建設株式会社など



5



3 1



6



4 2





宅島社長

9社となり、それぞれの会社の強みを活かした事業で拡大を続けています。今思えば、困っている人を助ける父の姿勢が、今後100年企業を目指す当社の総合力の基礎を作り上げてくれたのだと思います。

時代の変化でも変わらない人のつながりを大切にして

私が2011年に代表取締役役に就任してから、今年で10年になります。「いつかは宅島建設で働くだろう」という思いはあったものの、大学卒業後は、父の勧めで「ハウステンボス」に就職しました。その当時、ハウステンボスで計画されていた新規ホテルの開業にあわせて、

総務・人事面など開業に向けた色々な業務に携われたことは、その後の自分に大きな影響を与えてくれたと感じています。

3年ほど勤務した後に、宅島建設に入社。営業や管理などを学びながら、当時社長であった父の代理として、様々な場所へ顔を出し、社内外で起こる全ての出来事を肌で感じていました。特に現場の変化は顕著で、祖父や父の時代と違い、建設業もパソコンによる事務作業が主流となり、業務そのものが大きく様変わりしたと感じています。

そんなIT化が進む一方で、当社は、心を持つ人と人のつながりを大切にして、さまざまな地域貢献に取り組んでいます。まずは、雇用。社員は地元の高校生を積極的に採用するようにしており、学歴に関係なく本人のやる気次第で成長できる環境を整えています。おかげさまで、定着率も良く、一人ひとりの人間力が、当社の強みになっています。もう一つ、生まれ育った地元への恩返しから、将来を担う子どもたちへの支援を行っています。宅島建設杯と名が付いている「長崎県ジュニアユースサッカー選手権大会」は今年で29回目を数えます。親子2世代にわたり参加していると



11 9



7



8



10



1.対談風景／2.3.施設見学／4.創業者 宅島満壽美氏像／5.第27回宅島建設杯長崎県ジュニアユースサッカー選手権大会／6.70周年キャラクター土田陽葵、建山着／7.一般国道251号橋梁整備工事(1号橋床版工)／8.島原市保健センター新築工事／9.アメイジ諫早城見町パーク&リバーサイド完成予想図／10.恵燈保育園新築工事／11.企業メッセージ



本社屋上にて(前列左4人目から竹野常務、宅島社長、森頭取、宮島支店長(十八親和銀行))

いう方もいるほど歴史を重ねてきました。2021年5月には、地元への感謝と子育て支援を目的に、雲仙市に対し寄付金を贈呈しました。コロナ禍などで大変な思いをしている子どもたちのために、少しでも役立てていただければと願っています。社会を担うのは人であり、人を支える活動にこそ、未来が開けるとの思いから、地域・社会貢献へ積極的に取り組んでいます。今後も、人・地域の未来に貢献できる活動に力を入れていきたいと思っています。

新たなイメージ定着と

環境・理念の追求で

70周年を飛躍のチャンスに

2021年3月、当社は70周年を迎えました。スローガンである「夢をかたちに」をさらに実現していくために、支えてくださった多くの方に感謝しつつ、これまで培ってきた経験と誇りを大切に、これからもふるさとの発展に貢献していきたいと思っています。

70周年を機に、暮らしと土木・建築を感じながら成長する高校2年生の男女のキャラクターが誕生しました。土木・建築のイメージを

一新するようなキャラクターに驚かれた方も多かったようですが、若い人には特に好評で、このキャラクターを通して業界の理解を深めていただき、若い世代の関心につながればと願っています。

また、当社では社員の健康確保・増進と明るく元気に働ける職場の実現のため、健康経営への取り組みや、現在急速に認知が広がっているSDGsへの取り組みを積極的に行っています。社員が働きやすく、成長できる機会の提供や、環境・技術・教育などの社会的取り組みが評価され、「健康経営優良法人2021」・「SDGs認定」にも繋がりました。

さらに、経営理念と企業理念を生かすためのスローガンも刷新。今までの5つの「C」に変わり、今後は7つの「C」を掲げていきます。「Change」変革を恐れず現状に満足しない、「Continue」いいことは継続する、「Challenge」積極的に挑戦する、「Chance」機会を掴み取る、「Consensus」意思統一を図る、「Connect」繋がりを深める、「Communication」対話を通して互いに理解し合うと決めました。私を含めた社員一人ひとりがこの「C」を実践することで、人・

企業・地域発展の力となります。これまで以上に意識を高め、この変化の時代でも対応できる企業でありたいと思っています。

「企業は、人だ。」を大切に 100年企業を目指して

当社は「企業は、人だ。」と考えています。確かな技術はもちろんですが、何よりも大切にしたいのは、人と人のお付き合い、人の絆の力です。作って終わりではなく、引き渡した後メンテナンスを今まで以上に大切にしながら、このつながりを次につなげていきたいと考えています。その思いが積み重なっていくことで、80年、90年、そして100年へと命をつないでいきたいと決意を新たにしております。

私の好きな言葉は、「感謝・誠実・報恩」。今があることに感謝し、日々を誠実に生きたことで、お世話になった方、育ててもらった方々に恩返しできればと考えています。

宅島建設、そしてグループ全体で、それぞれの強みを発揮して、地域から必要とされる存在でありつづけるよう、これからも邁進してまいります。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 森 拓二郎

製塩業から始まり、今では多くのグループ会社を抱え、長崎県を代表する建設会社に成長されました。さらには人・地域・社会のために、スポーツやイベント、寄付活動など、様々な支援を積極的に行っておられます。

設立70周年を迎えられ、新たな挑戦を始められるとともに、若い世代への認知や、健康経営・SDGsへの取り組みなど、社会全体をより良くする活動にも貢献されています。人とのつながりを大切にされる理念のもと、地域貢献とともに、子どもたちに新しい夢と希望を与える企業として、さらなる活躍を期待しています。



Topics of the month

FFGの法人分野におけるSDGsの取組み

～対話を重視したSDGs目線での本業支援～

2021年8・9月合併号の
記事はこちら



現在のビジネスの潮流を踏まえ、企業のビジネスモデル・経営計画検討において、SDGsの観点は外すことのできない重要なものとなってきております。そのような環境下、FFGでは、次のような4つの流れで取引先企業様へのSDGs導入に向けた支援を行ってまいります。

まずは、このあとご紹介しますスコアリングモデルサービス（以下、本サービス）の活用です。本サービスを利用することで、SDGsに向けた取組みを指標化・見える化できます。

次に、本サービスの評価書を基に、銀行と対話していただくことで、SDGs取組みの状況の把握や同業他社との比較などを行い、お取引先企業様と銀行との間でSDGs導入に向けた課題の目線合わせを行います。

そして、優先課題の選定を行います。FFGでは選定した優先課題解決のため、ビジネスマッチングやSDGsマッピング（SDGs目線での事業の整理・棚卸し）をお

取引先企業様へご提案し、ともに課題解決を実践してまいります。

最後に、SDGsを経営に定着させるための社内体制の整備やSDGs関連目標の設定、中長期視点での経営戦略の策定、お取引先企業様のニーズに合わせた、事業承継やM&Aなどの事業継続のための具体的なご

スコアリングモデルサービスを活用した
お取引先企業様へのSDGs取組み導入支援

評価実施

評価結果による銀行との対話

優先課題への対応

目標設定・経営計画への導入

▶お取引先企業様と銀行との対話機会を増やし、SDGsの切口から、幅広いテーマを取り上げること、企業の持続成長に向けた支援につなげてまいります。

FFGのサステナビリティ活動

～法人分野における新サービス「Sustainable Scale Index」～

近日取扱い
開始予定

FFGがスコアリングモデルサービスに取り組む意義

Point1 地域のみなさまに活用いただける指標の提供

非上場企業のESG/SDGsの取組
みを指標化したデータは少ない



世の中には上場企業のESG/SDGsの
取組みを指標化したデータは多い

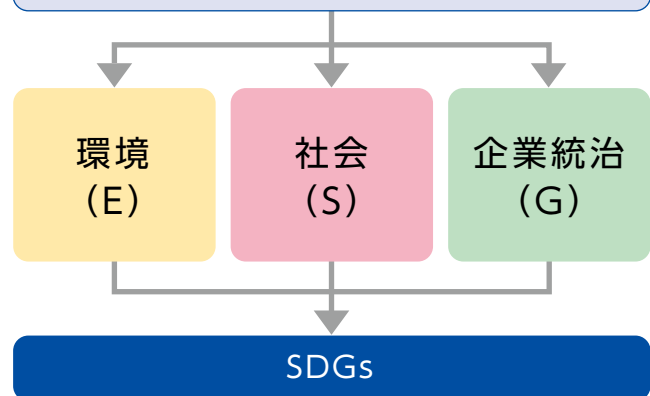
地域企業と幅広くお取引頂くFFGが本モデルを構築し、多くの地域企業が活用することで、
企業のESG/SDGsの活動を指標化し、地域のESG/SDGsの取組みに貢献できる

Point2 九州大学との協業による独自の評価システムの構築

2021年4月1日にFFGが設立したSDGs支援
子会社「(株)サステナブルスケール」は、国連
の「新国富報告書」の代表を務める九州大学主
幹教授の馬奈木俊介氏を取締役に迎え、
SDGs評価における新しい"ものさし"を創り、
SDGsの取組みを適切に評価・発信し、地域社
会の健全な成長に貢献することを目指します。



およそ200の評価項目(九州大学と協業)



支援も進めてまいります。

本サービスについて、世の中には上場企業のESG/SDGsの取組みを指標化したデータは多く存在しますが、非上場企業のデータはあまり存在しません。そのため、FFGが本サービスを提供することで、地域の企業のSDGsへ向けた取組みに貢献できると考え、九州大学と協業し、独自の評価システムを構築致しました。E(環境)、S(社会)、G(企業統治)及びサステナビリティに関連する評価項目にご回答いただくことで、ESG/SDGsスコアが算出される仕組みです。

FFGは、本サービスを起点に、お取引先企業様との対話を増やし、SDGs観点から、より深くビジネスを理解することで、SDGsへ向けた取組みの本格始動を支援いたします。将来的には、本サービスをFFGの活動エリアにおけるSDGs評価の標準形とすることを目指すとともに、お取引企業様の持続成長に向けた支援につなげてまいります。



日本初の「SDGs商店街」として 持続可能なまちづくりに取り組む

うお まちしょうてん がいしん こうくみ あい
魚町商店街振興組合 理事長 梯 輝元氏

北九州市小倉北区魚町3-1-15 魚町会館2F TEL: 093-521-6801



地域社会において人口減少や少子高齢化などの課題が山積するなか、地域社会の持続的な成長のために、サステナビリティの考えやSDGsの取り組みの必要性がますます高まりつつあります。

今回は、日本初の「SDGs商店街」である北九州市の魚町商店街（通称…魚町銀天街）で商店街振興組合理事長を務める梯輝元さんにお話を伺いました。

★ 商店街に活気を取り戻すための リノベーションからスタート

魚町銀天街は、北九州における陸の玄関口の役割を担うＪＲ小倉駅のほど近くにある商店街で、約400mにわたって続くアーケードの下に160近くの店舗が並ぶ広域型商店街です。その発祥は江戸時代の魚河岸とされており、小倉の街の繁栄とともに市街中心地の商店街として発展してきた歴史があります。1951年には、日本で初めて公道上にアー

ケードを建設し、その際の公募によって「銀天街」の愛称が付けられ、その名は商店街の通称として定着していきました。

1970年代前半には小倉駅周辺の通行量はピークを迎え、1日4万人近くの人通りがありました。が、地域の主力産業であった製鉄業の衰退に伴って客足は年々減少傾向に。さらに2008年のリーマンショック後には駅前から大手百貨店が撤退し、通行量は1万1千人にまで落ち込んでしまいました。

私が所有する商店街のビルも、2011年に地元の有名婦人服店が退去してしまう事態に。そこで、地元の建築事務所などとともにビルのリノベーションに着手したのをきっかけに、リノベーションスクールを開催して20件近い空き物件を再生しています。商店街の空き店舗や空きビルはチャレンジショップやスモールオフィスに

転用。外部から起業家や事業者を取り込んで、新たな産業や賑わいを創出して商店街に活気を取り戻す活動に力を入れてきました。

★ 北九州市のモデル都市認定を きっかけにSDGs活動へ

商店街とSDGsの活動が結びつくきっかけとなったのは、2018年に北九州市が環境問題への積極的な取り組みなどを理由に、経済協力開発機構（OECD）によってアジア初の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に認定されたことでした。商店街を中心としたまちづくりに加えて、ホームレス支援、障害者支援などにも携わってきた経緯から、これまでの取り組みをSDGsと関連づけることで、

【SDGs 17の目標】



商店街のエリア価値を向上させられるのではないかと思います。

SDGsで掲げられている開発目標のうちの「4.質の高い教育をみんなに」は、商店街が力を入れている取り組みのひとつです。商店主が講師となつて自らが扱う商品や調理技術などに関する専門知識やプロのコツを一般の人たちに教える「うおゼミ」は、開始以来8年間続いている活動です。これは愛知県岡崎市で始まった、地域活性化を目的とした「まちゼミ」という取り組みを参考にしたもので、多い時でひと月に50もの講座が開催されます。

商店街に来ることのできない人のために一部の「うおゼミ」を無料動画配信してきましたが、コロナ禍をきっかけにZoomを活用したライブ感のある講座も実施するようになりました。

また、商店街に開設された「北九州まなびとESD（※）ステーション」では、北九州大学など地域の教育機関が講座を開催。年間の利用者は2万人を超える状況で、教育の場ばかりでなく、「17:パートナーシップで目標を達成しよう」に通じる多世代交流の拠点にもなっています。

その他のSDGsのおもな取り組みとしては、「2.飢餓をゼロに」を目指すべく、フードロス削減のために、農協で取り扱えない規格外の野菜を商店街の食料品店で販売。飲食店の調理場では、食品廃棄物をなるべく出さないような調理の工夫に注力。「11.住み続けられるまちづくりを」を推進するために、リノベーションによる若手起業家支援やワーキングマザーのための環境整備に取り組んでいます。

（※）ESD：Education for Sustainable Development
（持続可能な開発のための教育）

★ コンテンツでの受賞で 認知度向上と意識共有に成功

SDGsの取り組みを継続的に推進していくには、商店主やテナントとの意識の共有と協力が何より重要です。身近な取り組みのなかで成功事例を積み重ねていき、その成果を実感してもらうことで意識を醸成する一方、取り組みを外へ伝え、その評価を発信することで商店街と地域の人たちに再認識してもらう

ことも並行して進めてきました。

2018年に日本で初めてとなる「SDGs商店街」宣言をした翌年に、商店街におけるさまざまなSDGs活動や、日本で二番目に国道上に設置したジョイントアーケードでの太陽光発電によるLED照明などが評価された結果、外務省による「第3回ジャパンSDGsアワード」で最優秀賞にあたる内閣総理大臣賞を受賞しました。マスコミで取り上げて



左2人目から菅官房長官、梯理事長、安倍首相（受賞当時）

もらったことで全国的に認知されるようになり、地元企業からの支援や県内外の各種団体から視察申し込みの連絡が相次ぐ展開となっています。

現在、商店街のアーケードに「SDGs商店街」を謳う横断幕を設置しており、商店主・テナント間の意識共有、地域住民や利用者への浸透に役立っています。

SDGs活動を継続的に行った結果、商店街における1日の通行量は活動以前の約3割増しとなり、30店以上の新規出店、約500人の新規雇用につながって、空きテナントの解消が進みました。また、商店街内でSDGsに対する認識が浸透するにつれて意識の高い人の来訪が促され、さらに人を呼び込む効果も生まれているようです。

★ 今後の活動を方向付ける 三つの試み

これからもSDGs活動に継続的に取り組んでいきますが、おもに三つの活動に注力する

予定です。

まずは、アーケード商店街誕生七十周年を記念した「SDGsマーケット」の開催。ここでは、環境問題に配慮したオリジナル商品などを販売していきます。例えば、老舗呉服店が手がけた風呂敷。風呂敷は、いわば日本で伝統的に使われてきたエコバッグですから、啓蒙活動も含めて商品展開ができればと考えています。ほかに、タケノコの産地として小倉南区



フードロスゼロを目指す食料品店

の合馬地区が全国的に有名ですが、竹林保護のための伐採で出た竹材料を使った商品の開発も進んでいます。

次に、「昆虫食」自販機の設置。今年の秋頃の実施をめどに計画が進行中です。地球温暖化と人口増加による食料不足という地球規模の問題に対する解決策のひとつとして期待が高まりつつある昆虫食に対する認識を広めるのがねらいです。東京農業大学の学生らが立ち上げたベンチャー企業との連携で、インターネット募金のクラウドファンディングで資金を募りながら進めています。

そして三つめが、視察や教育を前提とした受け入れ体制の構築です。コロナ禍で現時点では受け入れを中断していますが、修学旅行での来訪を希望する学校の受け入れ準備を行っているところです。

日本で初めて「SDGs商店街」を宣言した以上、他の商店街や組織の活動のお手本とされるよう、貧困・環境・教育などにおける課題解決を通じて子や孫の世代により良い地域社会を残せるよう、持続可能な取り組みを目指していきます。

北九州市内の企業・団体の方必見！ 「北九州SDGs登録制度」が スタートしています

北九州SDGs 登録制度とは

北九州市がSDGsの達成に寄与する市内企業・団体を登録し、その取り組みを「北九州市SDGs未来都市計画」との関連付けを行いながら「見える化」することで、市内企業・団体等のPRおよびSDGsの普及・実践を図る制度です。

登録すると こんな メリットが！

- 北九州市のホームページ等で自社・団体のSDGsの取り組みをPRできます！
- 取り組みのPRにより、自社・団体の認知度・価値が向上し、多様な人材の確保や、ビジネスマッチングによる新たな事業機会の創出などにつながります！
- 社会課題の解決を自社・団体の活動と関連づけることで、持続可能な成長・競争力の向上につながります！
- 北九州市の総合評価落札方式(工事)における加点や、有利な融資制度などの適用を受けることができます！
- 「SDGs経営サポート」に参加する金融機関からSDGsに関する支援を受けることができます！

お問い合わせ

北九州市企画調整局SDGs推進室

■TEL : 093-582-2302

■E-mail : kikaku-sdgs@city.kitakyushu.lg.jp



ご注意！

- 北九州市内に本社または支店等を有し、市内で事業活動を行う企業・法人が対象です。(常駐する従業員等がない事業所等は対象となりません)
- 12月末日まで第2次申請受付中です。2022年1月以降も随時申請を受け付けますが、第2次登録事業所とはなりません。



目指すはフラッグシップビル。
北九州の未来共創のために。



セントシティ(北九州市)



ビルをリブランディング
するための

コンセプトワークを重視

九州の陸路玄関口で北九州市の中心駅、JR小倉駅の目の前にあり、ペDESTリアンデッキ(※)で駅と直結した大型複合商業ビル「セントシティ」。このビルには、かつて大型百貨店の小倉そごうが出店し、一時期は人の流れが来てにぎわいましたが、親会社そごうの破綻に伴って閉店します。この時に、後継テナントの誘致を目的に、地元企業の出資によって、ビルの運営管理を行う会社として設立されたのが、北九州都心開発株式会社です。

その後、いくつかの核テナントが出店しますが、商圏の高齢化、人口減、郊外型ショッピングセンターとの競合などによる販売不振から撤退が続きました。そこで北九州都心開発は施設再生のために、新テナントの誘致、改装、運営の面で、ジョーンズ・ラング・ラサール株式会社など複数の事業用不動産サービス会社のノウハウを活用しながらビルのリニューアル開業を目指しました。

その際にこだわったのは、失敗を教訓にした、これまでとは異なるコンセプト。ビルの「リブランディング」を重要課題としました。利便性の高い立地の良さを活かして、駅前に長期的な活気を創出するために。

施設再生を生み出す考え方の柱は、大きく二点。まずは、これまでの「商業専門ビル」から「複合商業ビル」への形態転換です。立地優位性を活かして業種・業態を拡大すべく、「買う」「食べる」を満たす既存の施設構成に「働く」「集う」「磨く」といった機能を新たに追加し、24時間人が集う機能を強化するのがねらいです。

そしてもう一つは、「普段使い」を重視した商圏・ターゲットの絞り込みです。オフィスワーカー、近隣居住者、駅利用者などと親和性の高いサービス機能を軸として日常生活に役立つラインナップを充実させ、駅周辺の来訪者をターゲットに集客力強化を図ります。その結果、ルミエールマルシェやユニクロ、大規模カルチャーセンターの誘致に成功しています。

さらに、「ヒト・モノ・コト」を掛け合わせる機会創出と、北九州の未来共創への貢献という

ミッションを明確に掲げるために、施設名を「小倉駅前アイム」から「セントシティ」へ改称することに。英語表記の「SAINT City」は「Sustainable and Innovative Next City」を表しており、これからの社会に求められる「持続可能で、革新的な、新しい街」でありたいという願いが込められています。

(※)広場機能を併せ持つ、橋上駅舎と建物をつなぐ高架歩道



施設の求心力を高める キーテナントの誘致に成功

施設再生を目指す北九州都心開発の活動において、とりわけオフィスとそれに関連するサービスを提供するテナント誘致で大きな役割を果たしたのが、北九州市とFFGBビジネスコンサルティング（FFGBC）です。北九州市にはテナント企業のご紹介や改装費補助の面でも担当部局と連携しており大変なご支援をいただいています。そしてFFGBCは、不動産リーシングサポートなど、さまざまな不動産の運用課題に対するソリューションを提供してきた実績を有しており、専門家と連携

して不動産の資産価値を高める「アセットマネジメント」のエキスパート人材を多数擁しています。今回はその豊富な実績と高度な専門スキルが大いに役立てられました。

その典型例が、宮崎市に本社を置いてコワーキングスペースを展開し、オフラインおよびオンラインサービスの提供を通じて、創業支援や地域のビジネス・学び・文化活動の活性化支援を行っている株式会社ATOMICA^{アトミカ}の誘致です。同社は、宮崎市に次ぐコワーキングスペースの二号店出店を模索していた段階で、FFGの幅広いネットワークによってセントシティのリニューアル計画でアドバイザーを務めていたFFGBCとつながった結果、セントシティ7階に233坪、九州最大級のコワーキングスペースを2021年2月にオープンさせました。

アトミカ側は、初の北九州出店を果たした後、「FFGおよびFFGBCとの出会いがあれば、利便性と話題性の両面で最高といえる立地に Outlet することはできなかっただろう」と話しています。セントシティの方向性を示すキーテナントといえるアトミカの出店には、企業の販路開拓などのニーズを実現させてきた



セントシティ7階に誕生した「オープンパレット北九州」



FFGBC独自のビジネスマッチングに対する高い専門性が活かされています。

アトミカの正面には福岡銀行が開設・運営する「オープンパレット北九州」が誕生しました。ここでは現在北九州市・大学等のSDGsの取り組みを発信する展示スペースが設けられており、これから北九州における情報発信拠点としての役割を担っています。

またセントシティ9階と12階には、誰もがご存知の企業が入居予定で、これから北九州を代表する情報発信拠点になるものと確信しています。

SDGsへの取り組みで 地域の未来を拓く

2021年4月に名称を「セントシティ」に改め、複合商業ビルとしての再スタート切った施設は、「北九州の成長と市民の笑顔を絶やさないフラッグシップビルを目指す」というビジョンを打ち出しています。

その姿勢の表れのひとつといえるのが、SDGsに関して掲げた七つのゴール。北九州市が、2018年4月にOECD（経済協力開発機構）によりアジア初の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に認定されたのをきっかけとする取り組みです。例えば、コワーキング施設の誘致は、地場産業や学生と他都市企業の共創機会創出につながり、SDGsの「ゴール9／産業と技術革新の基盤をつくろう」に該当します。

北九州の未来共創への貢献を目指すセントシティの今後にも引き続き、幾多の地方創生や地域活性化に寄与してきたFFGBCのコンサルティング力が活かされていくことでしょう。

店舗概要

セントシティ (SAINTcity)

北九州市小倉北区
京町3-1-1



お問い合わせ

株式会社 FFGビジネスコンサルティング 不動産ソリューション部

■福岡市中央区天神2丁目13番1号 福岡銀行本店ビル

■TEL 092-723-2372

不動産鑑定士や一級建築士等の資格を保有し、豊富な経験を持つスタッフが、貴社が抱える様々なニーズにご対応します。



不動産ソリューション部 船越寛哲

FFGで始まる ビジネスマッチング のカタチ

このコーナーでは、FFGの紹介で実現したビジネスマッチングの事例を掲載します。

今回は、十八親和銀行の紹介によって業務提携に至った Bugs Well 合同会社と株式会社ウラノの記者会見の様子や提携内容の“昆虫食”について紹介していきます。



▲業務提携に関する調印式にて(左からBugs Well浪方代表、Bugs Well津本代表、ウラノ小林社長)

 十八親和銀行



BugsWell



 URANO

十八親和銀行
ホームページは
コチラ



Bugs Well
ホームページは
コチラ



ウラノ
ホームページは
コチラ



2021年8月5日、長崎県庁でBugs Well合同会社（以下、Bugs Well）と株式会社ウラノ（以下、ウラノ）による「昆虫食（コオロギ）の生産委託」に関する業務提携の記者会見が行われました。長崎県西海市に本社を構えるベンチャー企業Bugs Well（2021年1月設立）は、長崎県内で料理店を経営する津本氏と同地で地域商社を経営する浪方氏が共同設立した会社で、「人間の食卓に昆虫食を」というテーマのもと、コオロギを通じて世界中の社会問題の解決を目指しています。一方、ウラノ（1950年創業）は、埼玉県に本社を構え、長崎県と群馬県に工場を持つ、金属の切削加工を得意とするものづくりメーカーです。主な産業分野は、航空機の機体・エンジン部品、半導体製造装置部品の製造であり、社会インフラを支える非常に重要な会社になります。この2社の業務提携は、十八親和銀行からの紹介で実現しました。

きっかけは、十八親和銀行の担当者がウラノへ訪問した際に、昆虫食の分野に興味を持っているという情報をキャッチしたところからはじまります。その情報をもとに県内の昆虫食を扱う会社を銀行で調査した結果、銀行と親交が深い浪方氏との縁でBugs Wellに辿りつき、両社の商談が実現しました。お互いの考え方に共通する部分が多く、すぐに意気

投合。業務提携に至るまで時間はかかりませんでした。

そして、今回の業務提携の内容は、ウラノの社内遊休施設を利用してコオロギの養殖を行い、生産されたコオロギをBugs Wellが全量買取するというものです。Bugs Wellは、コオロギを粉砕してパウダー状にしたものを使用したチョコレートなどの新商品開発やコオロギパウダーをニーズのある食品メーカー、小売店、レストランなどへ販売することで市場の供給量を増やし、昆虫食がより身近なものになることを目指しています。

ここからは、なぜ昆虫食なのか、目指すべき姿はどこなのか、どういう効果があるのかなどを記者会見の内容から解説していきます。



記者会見の様子

業務提携イメージ

受託者：新たな働く場の創造、遊休資産の活用、収入源の確保

委託者：生産委託によるコオロギの生産力強化



昆虫食が求められる背景

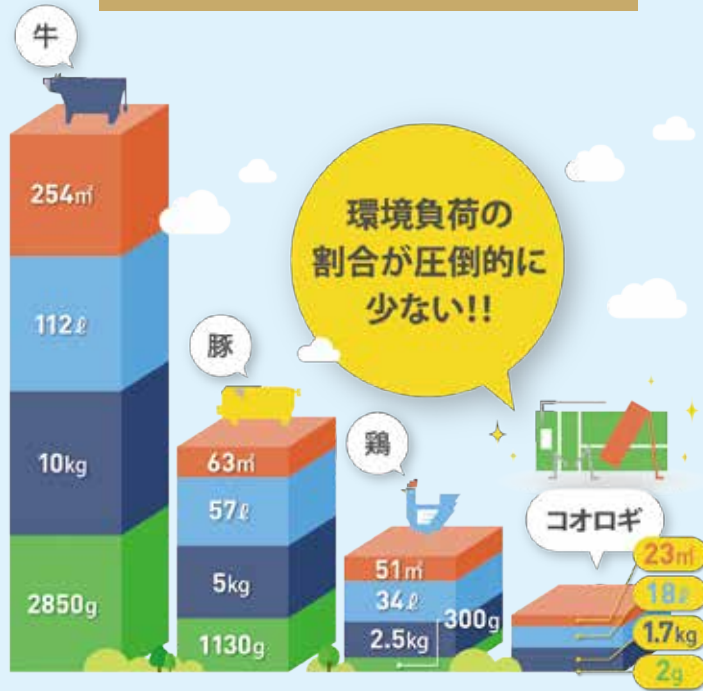
二つの地球規模の課題について、昆虫食がその課題解決の重要なファクターになると考えられています。課題の一つ目は、「地球温暖化」。我々が普段口に入っている牛肉、豚肉などの畜産物は、牛、豚などの家畜を飼育してはじめて生まれるものです。しかし、その過程では、多くのCO₂、メタンガスの排出や水資源が消費され、地球温暖化の一因といわれています。二つ目は、「たんぱく質の供給危機」です。

2050年にはおよそ100億人に達するといわれている世界人口の増加と世界的な食生活の向上（欧米化・肉食化）によって、食品の需要と供給のバランスが崩れることからお肉に含まれるたんぱく質の供給が追いつかなくなると予想されています。

これら二つの課題を解決に導く可能性を秘めているのが昆虫食です。今回は、Bugs Weeリーが扱っているコオロギを使って解説します。環境負荷の観点から見ると、体重1kg当たりの排出温室効果ガスは牛が約2,850g、

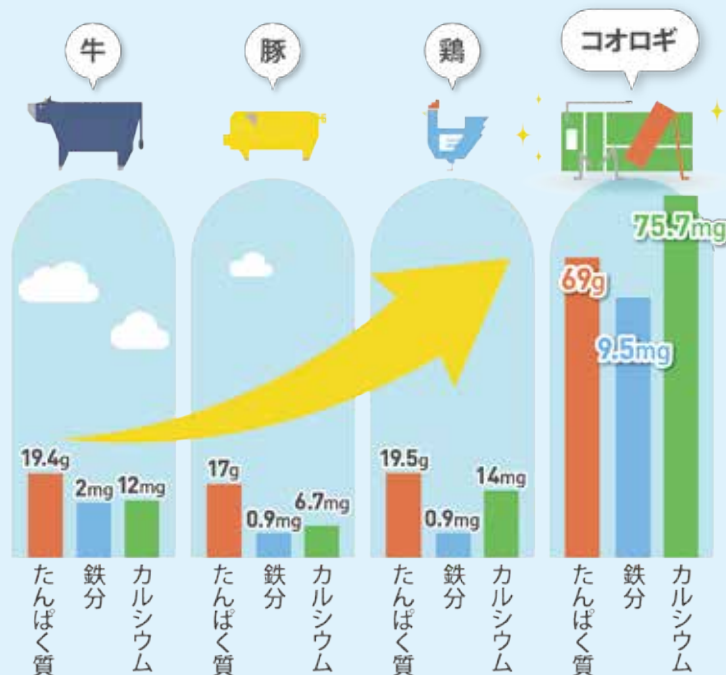
コオロギは約2gで大きな差があり、コオロギの方が飼育の過程が環境に優しいといわれています。また、成分比較では、100g当たりのたんぱく質は、牛が約19.4g、コオロギは約69gで3倍近く違いがあるともいわれています。この数字を見てわかるように、昆虫食は環境を考慮しつつ、今後の地球課題を解決するスーパーフードになり得るのです。2013年にはFAO（国際連合食糧農業機関）も代替たんぱく質として昆虫食を推奨しています。

食用生物別の環境負荷



(参照) 環境負荷：Food and Agriculture Organization of the United Nations

食用生物別の成分比較 (100gあたり)



(参照) 成分比較：EatGrub社のドライクリケットを元に算出 (EatGrub社調べ)

Bugs Wellが

昆虫食を通じて目指す姿とは

「食で人を幸せにする」を前提とした取り組みで、昆虫食を通じて、環境問題、食糧問題、健康促進などの社会問題の解決、新しい産業の創造、そして、「長崎という地から世界へ」未来に繋がる取り組みとして事業の発信を目指しています。長崎でやることの意味は、世界に向けた行動は地方からでもできるというメッセージを伝えたいということ。また、長崎県が掲げているスタートアップ支援、企業創造、産業発展への取り組みが事業を興しやすい環境であるともいえます。今回の提携のように今後も様々な企業と繋がりをもち、この産業を広めていき、目指すべき姿を実現していきたいとの思いがあります。

昆虫食事業へ参画する ウラノの狙い

ウラノが昆虫食事業へ取り組みはじめた理由は、「地球環境への配慮」、「障がい者雇用の拡充」、「キャリアチェンジの拡充」の三つがあります。「地球環境への配慮」は、今までの説明にもあったとおり、昆虫食が地球環境を守るために与える影響は大きく、企業として地球のためにできることをやっていきたいという思い

があるためです。ここはBugs Wellの思いに共感した部分でもあります。

次に「障がい者雇用の拡充」についてですが、コオロギの養殖では、温度、給餌、抜け殻や糞の処理などを適切に行う必要があるものの、家畜に比べスペースをとることがなく、飼育が容易という点に着目。手足にハンデがあっても取り組めることから雇用の拡大に繋がることを期待しています。

最後に「キャリアチェンジの拡充」ですが、定年後に必ずしも全員が現場で働けるわけではないことから、新たな職場として働く場を提供でき、製造業以外でのジョブローテーション強化にも取り組みができるようになります。

また、飼育場所として社内遊休施設の活用、耕作放棄地の再利用など地域の問題解決に繋がる面や生き物と触れ合うことでメンタルヘルスの改善も期待することができそうです。

新しい挑戦ながら様々な効果が期待できる事業として魅力を感じているということです。



Bugs Wellの既存委託先による飼育風景



Bugs Wellコオロギ飼育場



ウラノ コオロギ飼育場

現在の取り組みと今後の目標

Bugs Wellでは、新商品としてコロロギとチョコレートを組み合わせた「コロロチョコ」をクラウドファンディングサイト「Makake(マカケ)」で販売を行い、全て完売しています。トレーサビリティがしっかりしているうえに、見た目のかわいさもあり、昆虫食がはじめての方でも安心して食べることができる商品です。消費者と直接つながれるこういったサイトを大切にして、今後も新商品作りを進めていく予定です。

現在、長崎県内外で8事業者と生産委託の契約がありますが、今後も提携先を広げていき、供給量を増やし生産コストをさげることによって昆虫食をより身近にしていきたいです。

そして、Bugs Wellのみならず、生活圏や経済圏と良好な関係をとりながらの産業創造・企業成長を心がけて、関係している事業者の所得・雇用が生まれる輪を広げ、全国、そして世界を視野に事業を展開していきたいと考えています。今回の提携がその広がりへの一つのきっかけになると思っています。

Bugs Well のオリジナル商品



コロロチョコ

乾燥コオロギにチョコレートをコーティング。

『コロロチョコ』で使用される材料は純国産食用コオロギとチョコレートのみ。コオロギの味を活かすために余計な材料を使わず、シンプルな配合で、甲殻類に近い香ばしいコオロギの風味とカカオの香りを楽しめるお菓子に仕上げました。1つあたりの大きさは約2cmと食べやすいサイズとなっていますので、初めて昆虫食にトライする方にもオススメです！

クラウドファンディングサイト 「Makuake」での販売事例

※現在募集は終了しています



マクアケ販売サイト



サクサクしたココロギの食感とチョコレートの甘さがクセになる＜昆虫食＞

#フード #グルメ #スイーツ #健康 #チョコレート



今、注目されている昆虫食の中でも最もポピュラーなココロギ。その香りは甲殻類に近い香ばしさがあり、殻ごと食べられる小エビに似ています。ココロギ自体の味は淡泊で海産物系というよりも豆系に近いと言われています。



上質なチョコレートがブレンドされたチョコレート工場のプロたちが選ぶチョコレート。カカオの風味を感じながらも、優しい自然な甘さを引き出しています。

FFGではブランドスローガンである「あなたのいちばんに。」を
実践するために、お取引先様の販路拡大支援、新たな事業価値
創造、IT化支援など様々なお悩みの解決を図ってまいります。

vol.13

START UP Company

今月の注目スタートアップ

ここで紹介するスタートアップ企業は、ふくおかフィナンシャルグループの投資会社 FFGベンチャービジネスパートナーズが運営するベンチャーファンドが投資しています。



トドケル株式会社

VM ベジメディア
VEGE MEDIA



#“おいしい”をもっととどける

私たちとどける株式会社は農家さんの収益改善を目的に「VEGETABLE（ベジメディア）」の運営管理を行っています。ベジメディアとは契約農家さんの使用する野菜包装紙に企業さんのPRを掲載し、関東、関西、九州のスーパーマーケットに流通し広告宣伝を行い、また流通される包装紙は農家さんへ無償で提供しコスト削減へと繋げております。

ベジメディアのポテンシャル

広告のターゲットはスーパーマーケットで買い物をする主婦層がメインで使用するお野菜は企業様によって様々です。コロナ禍で外食が減っている



スーパーの売り場で陳列された一例

中、スーパーマーケットの需要は上がっております。また、野菜のリーチ率は96・5%。ここまでのダイレクト広告は今までにないほか、今年より開始したストアタイアップ企画でスーパーのセグメントも可能となり、さらにお野菜の広告と同時期に隣で広告商品の販売も出来る様になりました。購買意欲のある主婦層にダイレクトに商品訴求出来る媒体は今までなく、広告の認知・購入までのハードルを一気に下げ企業さんのマーケティングのお手伝いをさせて頂きます。

当社の強みと私たちの考え

当社の強みと役割はただ広告を出すのではなく企業担当者様と一緒に広告を企画として考えていったら消費者に刺さり面白い取り組みになるかを一緒に考え実現します。つまり、新しいクライアントと一緒に事業をクリエイティブ、挑戦も成功も分かち合いたいというのが私たちのやり方です、広告メーカーだからその強みです。広告を見る消費者達は広告に対するイメージは良いものでしょうか、YouTubeで流れる広告はテクノロジーや効率を重視すぎて消費者もスキップするのが当たり前になっています。

しかし企業広告の本来のあり方は消費者に

とつて有益な情報を届け、なぜこの広告がここへ流れているのかを考えさせ、納得し観て楽しんでもらえるものだと考えています。私たちは広告に携わる以上一番に考える事です。まだ全く新しい広告媒体のベジメディアです。今後の可能性と広告としてのポテンシャルは十二分にあると考えております。

今後の展望と目標

当社は今後、システム開発から流通の見える化を行います。農作業の自動ロボットなどAI、IoTは当たり前に進んでいる中、当社ではベジメディアを元に農業の課題である耕作放棄地・人材不足・新規参入者の減少をビジネスと教育の面から解決していきます。



会社概要

とどける株式会社

代表取締役 國武 悠也

本社 福岡市博多区中洲3丁目7-24-11F WeWork

H P <https://todokeru.co.jp/company.html>





地域とつながるFFG連携プロジェクト

FFGの幅広いネットワークを活かした地方創生の具体的な事例をご紹介します。

地域産品の販路拡大・デジタル支援の取組み

私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。今回は、福岡県柳川市の事業者株式会社やまひら（以下、やまひら）と連携した、地域産品の販路拡大・デジタル支援の取組みをご紹介します。

九州最大の海である有明海は、「豊穣の海」と呼ばれ、地元漁師や飲食店などの生活の糧になっています。ところが、自然環境の変化によって漁獲量や固有の生物が激減。保護活動を行い、絶滅を回避することができたものの、漁が再開した頃には飲食店から有明海固有種のメニューが消え、食文化も薄れてしまい、さらに、一部の生活が成り立たなくなった漁師は廃業せざるを得ない状況となっていました。

そこで、「有明海をいただきます」をスローガンに魚屋食堂を運営してきたやまひらの金子社長は、有明海の幸を楽しく食べ、漁師の生活を守りたいとの思いで「むつ

ごろうラーメン（ムツゴロウ炙りだしを使ったラーメン）」「エイリアンエナジー（ワラスボのエキス入りドリンク）」などのユニークな商品を開発してきました。それらの商品は、多くのメディアにも取り上げられ、柳川はもちろん福岡のお土産のひとつとして認知度が高まってい

ます。

また、有名人とコラボした「TH EさBAR^{パイ}（サバの燻製）」はJRB博多駅・福岡空港でも販売されており、出張で福岡に来たビジネスマンの帰路時のおつまみとしても人気になっています。

“むつごろう”などの有明海の生き物が自然環境の変化で激減

▼ ～ 有明海で漁の在り方を考える「宝の海を守ろう」～

保護活動の成果もあり全滅回避、少量ではあるが漁が復活する

▼ ～ 地元漁師は苦しみながらも徐々に復活～

漁が復活しても保護活動期間に飲食店のメニューから消え、有明海独自の食文化に影響

▼ ～ 「食文化」「地元漁師の生活」を守りたい～

有明の海の幸でおもしろ可笑しくも、有明海が注目されるような商品を作り出したい

有明海の「食文化」「地元漁師の生活」を守るために“むつごろうラーメン”が完成

平成25年 第54回日本観光振興協会会長賞受賞
平成27年 柳川ブランド認定品

商品の企画コンセプト

現在、やまひらと福岡銀行地域共創部が連携した取組みとして、エンニチFUNDINGで新商品「THEさBARラーメン」を先行予約販売するクラウドファンディングを行っています。今回のクラウドファンディングでは、当商品をはじめ、やまひらが運営している魚屋食堂夜明茶屋の人気商品をお届けするセットや、実際に魚屋食堂に来てお得なサービスが受けられる商品引換券付きセットも返戻品にご用意しています。

当部では、本プロジェクトをはじめとして地域産品の販路開拓や新商品のテストマーケティング・プロモーションの場としてECモール（オンラインストア）やクラウドファンディングでの出品支援を行っています。今後も「キラリと光る“地域産品の販路拡大・デジタル支援を通じた地域活性化を推進してまいります。

家飲みからシメまでこれひとつでOK！ 夜明茶屋の大ヒット商品「THE さ BAR」がラーメンになって新登場！

「むつごろうラーメン」や「エイリアンエナジー」で一躍話題となった、柳川市夜明茶屋の「THEさBAR」がラーメンに。コロナ禍で急増する家飲み需要に夜明茶屋からの新提案。







柳川の名物社長手掛ける新商品
“THE さ BARラーメン”をお届け







エンニチ FUNDING



福岡銀行 地域共創部
(左から) 藤永、三船
【お問い合わせ】TEL (092) 723-2254



ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア

 bank baton



【SDGsとは】2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際目標です。2030年までに「誰ひとり取り残さない」社会を実現することを目指しており、下記の17の目標(ゴール)と、更に細分化された169のターゲットから構成されています。





熊本県

OGUNI TOWN

小国町

(寄稿:小国町)



小国町

熊本県



北里柴三郎記念館の博士像と涌蓋山



道の駅「小国」ゆうステーション

小国町の概要

小国町は熊本県の最北端に位置する緑豊かな町です。その豊かな自然は人をも育み、日本が世界に誇る細菌学者で、2024年発行予定の新紙幣の肖像に採用された北里柴三郎博士や、グレー画家の坂本善三画伯といった先人を輩出しています。

小国町は古くからその特異な気候風土により、良質な「小国杉」の産地として栄えてきました。小国杉は、寒暖の差が大きい気候により、年輪の木目が細やかになり家屋の材料用として丈夫であるということが最

大の特徴です。小国林業の歴史は1750年代に、肥後藩令により各戸25本の挿し木を行ったことにはじまり、現在では町の面積の78%を山林が占めています。

町内では多くの特徴ある木造建築物を見ることができます。中でも特産品の販売や、地域の情報を紹介する道の駅「小国」ゆうステーション、スポーツなどのイベントに使用される「小国ドーム」、森林組合の事務所を兼ね、林業と木材の全てが分かる施設「林業総合センター」の3施設は木造立体トラス構造(*)により建設されており、全国から注目を集めています。

(*)トラス構造とは、構成される三角形を単位とした構造骨組の一種で、各部材の端部節点がすべて2点接合(自由に回転する支点)となっているものをいいます。変形しにくい構造でドームなどの大空間や橋の架構に用いられています。



小国ドーム



林業総合センター



杖立温泉



杖立温泉 背戸屋

湯治の街と 自然を楽しむ

山あいの温泉郷

小国町には、特徴ある温泉が二つあります。一つ目は、杖立温泉です。無色透明の単純温泉で肌触りがやさしく、保湿効果が高いのが特徴です。この温泉は1800年もの歴史があるといわれており、古くから湯治場として親しまれてきました。

熊本県と大分県の県境に位置する杖立温泉街は、昭和初期から中期頃、「九州・福岡の奥座敷」と呼ばれ、大変多くの人が訪れる地でありました。杖立では狭い路地のことを背戸屋^{せどや}と呼び、現在でもたくさん残るこの背戸屋を歩いて回ること、時代を遡り旅する不思議な感覚を味わえます。

二つ目のわいた温泉郷には湧き上がる六つの温泉があります。その中の一つ、はげの湯温泉は、小国富士と呼ばれるわいた山の西麓に位置する

温泉です。標高760mの高原にわく温泉で、各旅館からの眺望は素晴らしく、阿蘇の大自然を堪能することが出来ます。その他にも、わいた山の麓にある岳の湯温泉は、至る所から蒸気が噴出しています。この天然の蒸気は、暖房や料理など普段の生活にも活用されています。さらにわいた温泉郷には、山川温泉や、地獄谷温泉、麻生釣温泉、鈴ヶ谷温泉などがあります。

自然の宝庫

多くの自然や清らかな水に囲まれる小国郷には、48もの滝があると言われています。中でも鍋ヶ滝は高さ10m、幅20mと横に幅広い水のカーテンのような滝です。滝の裏側に道ができており、裏側から滝を鑑賞することもできます。滝の裏側からは、水のカーテン越しに山あいの幻想的な景色を楽しめます。2014年9月に「世界ジオパーク」に認定された「阿蘇ジオパーク」の中でも、大地の息吹を感じることができる、重要な場所のひとつとされています。



わいた温泉郷



鍋ヶ滝



北里文庫内展示室



◀新千円札の肖像に
北里柴三郎博士を採用

歴史と文化にふれる

「日本の細菌学の父」

北里柴三郎博士

2024年発行予定の、新千円札の肖像に採用された北里柴三郎博士は小国町出身です。

北里柴三郎博士は、1853年小国の北里村（現小国町北里）の庄屋北里惟信の長男として生まれました。東京医学校（現東京大学医学

部）に進み、日本代表の留学生として結核菌の発見者であるドイツのローベルト・コッホに師事しました。ここで貴重な研究実績を次々と発表しました。とりわけ破傷風菌の純粹培養法の確立と血清療法の発見は前人未到のもので、世界の医学会にその名をとどろかせました。帰国後、福沢諭吉などの援助により伝染病研究所を設立し、1914年には自力で北里研究所を設立しました。以来、1931年に死去するまでわが国の公衆衛生・医学教育・医療行政の発展に貢献しました。

北里柴三郎記念館は北里柴三郎博士が1916年に私財を投じ、故郷の青少年のために贈った「北里



北里柴三郎記念館（貴賓館）

文庫」と、同時に建てられた「貴賓館」がもたになっています。1965年に河川改修のため博士生家が同じ敷地内に移設されました。その後、北里研究所、北里学園が中心となり、多くの方々の協力を得て博士の生家の復元修復を行うとともに、博士に関する顕微鏡や手紙などの遺品を陳列し、小国町に寄贈したものです。北里柴三郎博士は小国町の名誉町民として、多くの人に尊敬されています。

「東洋の寡黙」坂本善三画伯

坂本善三画伯は「グレーの画家」「東洋の寡黙」と評され、熊本を代表する抽象画家として知られています。

故郷の風土や自然に根ざした作品は、「自分とは何か」を追求した坂本独自の抽象であると世界でも高い評価を受けました。

1995年に歴史ある銚納宮神社の隣に建てられた小国町の美術館で、坂本善三画伯の作品を見ることができます。また、この美術館は、国内でも数少ない畳敷きの美術館です。



1970年当時の坂本善三画伯



坂本善三美術館

小国町観光マップ



今後の 観光施策について

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、これまで経験したことのないような危機が観光業界全体を襲っています。

宿泊予約については4月以降は8割以上の施設が70%以上減少となり、今後も極めて厳しい状況が続く見込みです。コロナ禍で人々が自由に動けない時期に、小国町は地域資源の磨き上げによる観光資源化で、収束後の持続可能な観光地づくりに向けた取り組みを進めています。

具体的には、鍋ヶ滝公園周辺の交通渋滞緩和対策として、コロナ禍でも安心して観光できる環境を整備することを目的に、予約システムを導入し、11月4日から実証実験をスタートし、2022年4月の本格稼働に向けて取り組んでいます。さらに新たな観光資源の開発として、鍋ヶ滝、下城の大イチョウ横にある下城滝、鍋釜滝にライトアップ設備を整備。今後は町の新たな観光

資源として活用していきます。

このような取り組みに加え、2024年上半年発行予定の新紙幣千円札に北里柴三郎博士の肖像画が採用されました。それにより、小国町の注目度が高くなることが予想され、博士の理念である「学習と交流」としての「教育旅行」など観光客の誘客を目指す滞在交流型観光地として新しいイメージを高めていきます。



ライトアップされた下城の大イチョウ



下城滝



健康目線で地域をご紹介
楽しく歩いて健康づくり

健康と観光

九州まち歩き



早岐エリアは、佐世保市南東部の中核地域で、針尾島との間に佐世保湾と大村湾を繋ぐ早岐瀬戸が通っています。
古くから海陸の交通の要衝として栄え、今でも様々な物資や旅客が集うターミナルタウンとして発展しています。

大念寺の鐘楼山門、平戸往還（江戸時代の街道）の石畳といった由緒ある遺跡がある一方、ハウステンボスや長崎国際大学に隣接し、宅地化も進んでいます。

詳細のMAPはこちら



1 海旬彩 花りん

佐世保市早岐2丁目3-26 ☎0956-38-4839



四季折々の新鮮な海・山の幸が味わえる創作和懐石のお店です。全席個室のため、ゆっくりと贅沢なお食事の時間を過ごしたい方におすすめです。旬な食材を使う「花りん昼懐石」は、品数も豊富で人気のメニューです。また、6種類の味が楽しめる松花堂弁当などのテイクアウトも行っています。

2 早岐教会



戦後、平戸・黒島・五島などから移住してきた信徒のため、佐世保の三浦町教会から司祭が巡回し、ミサをしていました。当初は民家でミサを行っていましたが、やがて現在地に初代教会が建立され、1985年に現教会に建て替えられました。

長崎県
佐世保市
ウォーキング
マップ

佐世保市第2弾
早岐エリア

5 和風茶屋 里仙

佐世保市広田3丁目6-17 ☎0956-38-2130

新鮮な活魚料理や四季折々の会席料理など豊富なメニューがある和食専門店です。店内はいけすの水の音が心地良い、落ち着いた雰囲気の和の空間。掘りごたつ式の小上がりもあり、ゆっくりと食事が楽しめます。お昼の人気メニューは、料理長おすすめ弁当。定食も充実しています。



8 梅ヶ枝酒造(株)

佐世保市城間町317 ☎0956-59-2311



天明年間(1780年頃)創業の造り酒屋。全国新酒鑑評会での金賞をはじめ、福岡国税局の鑑評会で6年連続優等賞など、数々の受賞歴があります。焼酎や日本酒はもちろん、いろいろなフルーツのリキュールも製造しています。また創業当時の建物は、国登録有形文化財に指定されています。事前予約で、蔵の見学や試飲もできます。



3 観潮橋

佐世保市の南東部、本土と針尾島の間にある長さ10kmの瀬戸に架かる橋です。外洋との干満の差から潮の流れは急であり、満ち潮、引き潮のたびに右に左に潮の流れが変わります。そういった潮の流れを眺めることができることから「観潮橋」と名づけられました。



4 子安観音の大クス



県指定の天然記念物で、幹は7本に分かれており、根まわり14.65m、目通り幹まわり7.6mもある、樹齢400～500年のクスノキ。樹下にある三界万霊の碑は、文化4年(1807年)に疫病が流行ったときに建立されたそうです。

佐世保湾

6 ザ パラダイスガーデン サセボ

佐世保市崎岡町853-12 ☎0956-39-4800



源泉かけ流しの天然温泉があるリゾートホテル。大浴場と家族湯があり、温泉のみの利用も可能です。長崎県・西海町の新鮮な魚や野菜を使った和洋食、いけす料理、焼肉などを楽しめるレストランもあります。



7 ホテルローレイ

佐世保市南風崎町449 ☎0956-59-3939



JRハウステンボス駅正面、天然温泉のリゾートホテルです。バリアフリーで安心して利用できる部屋もあります。食事は、ご家族で楽しめるメニューから居酒屋メニューまで旬の素材にこだわり抜いた料理の数々を用意しています。また、レストランからは、ハウステンボスの街並みが楽しめます。





Taipei Representative Office

台北駐在員報告



世界最大の半導体ファウンドリである台湾TSMCの製造工場

台湾の 半導体産業について

はじめに

「産業の米」とも言われ、台湾経済の大黒柱になっている半導体産業は、COVID-19のパンデミック以降、PCやタブレットなどの需要拡大や、AI・5G・IoT等のデジタル技術の進化に伴い、世界で注目を浴びています。世界経済が低迷する中、2020年の半導体業界は前年比+6.8%の高成長を遂げており、市場規模は、2021年、2022年と2年連続で過去最高額を更新することが予想されています。【図1】

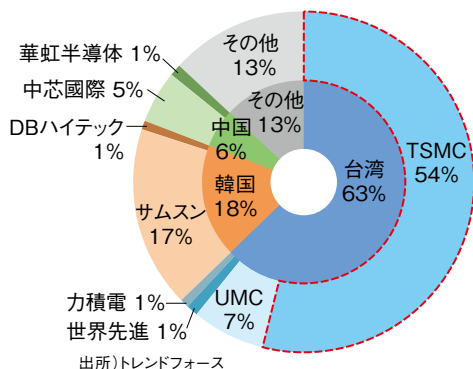
台湾半導体産業の特徴

半導体企業の業態は、設計・開発から製造・販売まで一貫して手掛ける「IDM」(*)と、自社工場を持たず設計・開発に特化した「ファブレス」、自社ブランド

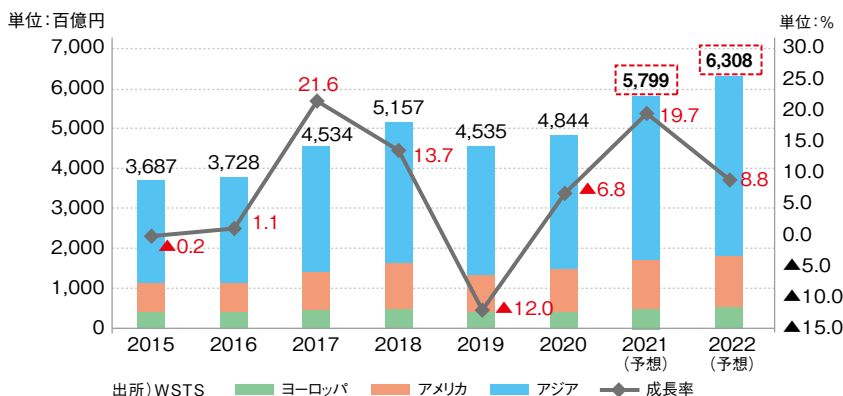
製品を持たず、主にファブレスからの製造を受託する「ファウンドリ」の3つに大きく分かれています。台湾の半導体産業は、プロセス別に特化した企業によって担われる垂直分業体制をとっており、その中でも、半導体チップの受託製造に特化したファウンドリ企業の割合が多いことが最大の特徴です。技術開発等の進化が常に求められる半導体業界において、設備に対して莫大な先行投資を必要とするファウンドリは、新規参入障壁が非常に高く、製造ラインの稼働率をいかに高く維持できるかということが、業績を大きく左右するポイントになります。近年では、米国のアップル社を筆頭に、ファブレス企業の台頭が世界で進んだこととデジタル化の進展に伴い、製造に特化するファウンドリ企業が存在が重要視されるようになりました。

(※) Integrated Device Manufacturerの略で、「垂直統合型のデバイスメーカー」とも呼ばれます。

■図2 世界のファウンドリ市場のシェア(2020年)



■図1 世界の半導体市場規模と成長率の推移





海外拠点紹介

福岡銀行 台北駐在員事務所

(The Bank of Fukuoka,Ltd. Taipei Representative Office)

[所在地]

台湾台北市中山区松江路126号将捷國際商業大樓6F-1

[電話番号] (国番号 886) 2-2523-8887 [所長] 大山 一平

福岡銀行 上海駐在員事務所

(The Bank of Fukuoka,Ltd. Shanghai Representative Office)

[所在地]

中華人民共和国上海市延安西路2201号

上海國際貿易中心2010号室

[電話番号] (国番号 86) 21-6219-4570 [所長] 西村 康彦

福岡銀行 バンコク駐在員事務所

(The Bank of Fukuoka,Ltd. Bangkok Representative Office)

[所在地]

16th Floor Unit 1606, Park Ventures Ecoplex,
57 Wireless Road,Lumpini, Pathumwan,
Bangkok 10330, Thailand

[電話番号] (国番号 66) 2256-0695 [所長] 水田 英男

福岡銀行 シンガポール駐在員事務所

(The Bank of Fukuoka, Ltd Representative Office Registered in Singapore)

[所在地]

65 Chulia Street #27-03 OCBC Centre Singapore 049513

[電話番号] (国番号 65) 6438-4913 [所長] 田中 慶介

福岡銀行 大連駐在員事務所

(The Bank of Fukuoka,Ltd. Dalian Representative Office)

[所在地]

中華人民共和国大連市人民路60号

大連富麗華大酒店622号室

[電話番号] (国番号 86) 411-8282-3643 [所長] 益野 裕至

福岡銀行 香港駐在員事務所

(The Bank of Fukuoka,Ltd. Hong Kong Representative Office)

[所在地]

Room 404, 4/F, Far East Finance Centre,
16 Harcourt Road, Hong Kong

[電話番号] (国番号 852) 2524-2169 [所長] 長 真太郎

福岡銀行 ニューヨーク駐在員事務所

(The Bank of Fukuoka,Ltd. New York Representative Office)

[所在地]

One Rockefeller Plaza, Suite 1201,
New York, NY 10020-2003, U.S.A

[電話番号] (国番号 1) 212-247-2966 [所長] 高木 一朗

福岡銀行 ホーチミン駐在員事務所

(The Bank of Fukuoka,Ltd. Hochiminh Representative Office)

[所在地]

Suite 1108, Saigon Tower, 29 Le Duan Street,
District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam

[電話番号] (国番号 84) 28-3822-2802 [所長] 佐々木 了悟

TSMC(臺灣積體電路製造
股份有限公司)の存在

世界最大のファウンドリ企業であるTSMCは、台湾政府による投資優遇制度のもと、他社の追従を許さない最先端プロセスの技術開発と先端装置導入への高額投資を継続的に行ったことにより、スケールメリットと稼働率の向上、さらには高収益を実現し、ファウンドリ市場50%超のシェアを占める象徴的な存在となっています。[図2・3]

2021年の設備投資額が過去最高額となる3兆円超を予定しているTSMCは、今年2月に、日本初となる研究開発拠点を茨城県に新設することを決定。さらに、7月に開かれた業績説明会では「日本初の工場新設においても、検討段階にある」と発表しました。このニュースは台湾現地でも大きく取り上げられ、現地日系の半導体関連企業からも日本の半導体産業の活性化に繋がる可能性を期待する声が上がっています。半導体業界に

おいて材料や装置に強みを持つ日本と、製造に強みを持つ台湾は補完関係にあり、連携に期待が高まります。

福岡銀行の海外駐在員事務所では、海外向けの販路や仕入先の新規開拓、市場調査や進出の相談等様々なサポートを行っており、最寄りの店舗へお気軽にご相談下さい。

2021年7月22日現在
(台北駐在員事務所 大山 一平)

■図3 時価総額世界ランキング(2021年6月末時点)

順位	企業名	時価総額(兆円)	業種	国籍
1位	アップル	244.3	IT・通信	
2位	マイクロソフト	219.6	IT・通信	
3位	サウジアラムコ	206.1	エネルギー	
4位	アマゾン	188.6	小売	
5位	アルファベット	180.3	IT・通信	
6位	フェイスブック	106.7	IT・通信	
7位	テンセント	81.4	IT・通信	
8位	テスラ	71.2	輸送用機器	
9位	パークシャー・ハサウェイ	70.3	金融	
10位	アリババ	66.3	IT・通信	
11位	TSMC	60.5	半導体	
12位	サムスン	54.1	IT・通信	
37位	トヨタ自動車	27.4	輸送用機器	

時価総額は1米ドル=110円で換算 出所) Corporate Information

法人向け資金管理サービス

DataBiz

 データBiz

試験提供実施中

口座情報をいつでもどこでも確認

他行も含めた
複数口座を
まとめて確認！

DataBizとは？

DataBizは口座情報をもっと簡単に確認したいというお客様の声から生まれたサービスです。パソコンやスマートフォンから、福岡銀行はもちろん他行も含めた複数の口座をまとめて確認できます。口座の入出金があった際、メールでお知らせする機能もあります。



口座の動きを確認

入出金の年間推移グラフ
入出金明細
口座残高確認
口座連携(福岡銀行と他行)



メールでお知らせ

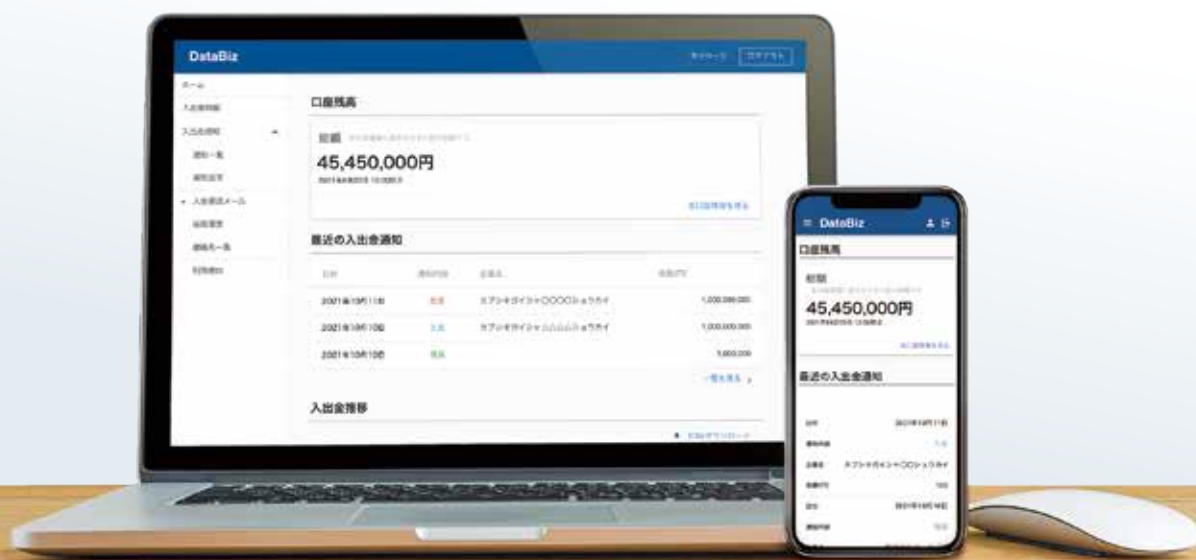
入金/出金/残高のメール通知
入金先に確認メール送信



どこでも確認

全機能のスマホ対応
外出先でもスマホやタブレット
から簡単に確認できます。

※当座預金口座と他行口座では一部ご利用いただけない機能がございます。



DataBizで資金管理の課題を解決！



メールで入出金をお知らせ！

いち早く知りたい入金や出金、下回りたくない口座残高を設定するとメールで通知を受け取ることができます。不測の事態をいち早く察知して「あの入金きたかな」とATMに記帳確認しにいく手間から解放されます。

口座の情報をWEBで確認！

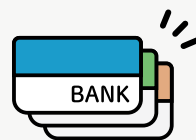
PCやスマホのWEBブラウザから口座の入出金を確認できるので外出先でもすぐに確認できます。

複数の口座をまとめて確認できるので、それぞれの口座・通帳を確認する手間がなくなります。



ふくぎん以外の金融機関とも連携できます！

DataBizで他行の口座情報の連携ができ、会社でお使いの当座預金口座を含む全ての口座の明細をまとめて確認いただけます。



注意事項・動作環境

- ※ 本サービスは、福岡銀行の預金口座をご利用いただいている法人または個人事業主様のみご利用可能です。熊本銀行・十八親和銀行の口座および他行の口座のみをご利用の法人または個人のお客様は対象外となりますので予めご了承ください。
- ※ 本サービスは、実証実験期間終了後にはサービスの提供が終了する可能性がありますので予めご了承ください。
- ※ 口座情報の反映には、福岡銀行の口座の場合30分～1時間程度、他行の口座の場合1日程度の時間がかかるケースがございますので予めご了承ください。

推奨ブラウザ

[PC] Chrome 最新版, Edge 最新版, Safari 最新版, Firefox 最新版
[スマートフォン] iOS/Android で標準搭載されている Safari/Chrome 最新版

お申込み手続きはオンラインで完結します。詳しくは HP をご覧ください。

福岡銀行 データBiz

検索

お問い合わせ

福岡銀行 ビジネス開発部 DataBiz 事務局

092-723-1859

[受付時間] 平日 9:00～18:00 但し、銀行休業日は除きます。



九州地域におけるDX加速政策のヒント

～DXの本質とバンカーへの期待～

株式会社野村総合研究所 主席研究員 藤野 直明 氏

主催／(公財)九州経済調査協会
(株)ふくおかフィナンシャルグループ

開催／2021年5月28日(金) 13:30～15:00

はじめに

デジタルトランスフォーメーション(DX)について業界を問わず関わっ

2021年度経済講演会は、株式会社野村総合研究所の主席研究員藤野直明氏をお招きし、「アフターコロナのDX経営」をテーマに、経営者の視点から、コロナショックやハノーバーメッセの動向、DXの進捗と企業の成長戦略、DX加速のための地域産業政策のアイデアをお話いただきました。

ています。公開できる範囲でご紹介すると、製造業DXではロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会のWG1インテリジェンス・チームのリーダー、小売業DXでは日本小売業協会CIO研究会のステアリングコミティのコーディネーター、物流DXは、政府の2020年代の総合物流施策大綱検討会メンバー、スマートシティや社会基盤ではJR東日本モビリティ変革推進コンソーシアムのステアリング委員会の委員などです。私は、DXは産業構造を変えていくことと考えており(後述1・2)、いわゆる業界の垣根を越え



株式会社野村総合研究所
主席研究員

藤野 直明 氏

- 1986年 早稲田大学 理工学部 物理学科卒業
1998年 東京大学大学院 工学系研究科
先端学際工学専攻博士
課程単位取得
1986年 野村総合研究所入社
ビジネスイノベーション事業部長を経て
現在 産業ITイノベーション事業本部
主席研究員
早稲田大学理工学術院大学院客員教授、
日本経営工学会副会長、日本オペレーシ
ンズリサーチ学会フェロー、オペレーションズ・
マネジメント&戦略学会理事



てあらゆる産業に影響を与え、産業の融合と進化が進むと考えています。「創造的破壊と新結合」という考え方をシュンペーターが提唱したのは有名です。これが「イノベーション」の本質なのですが、まさにこの意味でDXは産業全体にわたるイノベーションです。

日本でのDXは、新型コロナウイルスにより20年ほど進化したと考えております。技術発展に対する評価ではなく、クリエイカルマス(閾値)以上のユーザーの心理的バリアを壊し、デジタルへの慣れやマインドセットが進化したことが大きい。知識やノウハウの形式知化、組織知化が進み、さらに各種の協働活動もリモートに移行せざるを得なくなりました。この結果、デジタル技術を活用してスケールアウトできる業務やそのための仕組みが確立されつつあると思います。

本日は、経営者としてDXを成長戦略にどう位置づけるべきか。DX

とはそもそもどういう現象なのか、また九州地域の総合力を発揮するためにはどうすればよいかなどについていくつかのヒントとなるお話ができればと思います。

九州地域のポテンシャルは極めて大きいと思います。九州DXを加速するにはどうすればよいか。もちろんAIや各種のデジタル技術、データサイエンスなどを学習することも重要ですが、むしろこうした新しい技術を、業務革新やビジネスモデルの創造にどう活用していくのか、そのアイデアを生み出すための「知識や知恵」に対して投資すべきだと思います。これが「オペレーションズ・マネジメント」と呼ばれる研究教育分野です。

日本ではあまり話題になりませんが、世界トップのMBA、ビジネススクールで研究され、広く議論され教えられている知識体系になります。

今日は、まず4月に完全にデジタルで開催され、私も登壇したハノーバーメッセ2021を振り返りながらDXを考える4つのパラドックス(逆説)

からDXを考える4つのパラドックス(逆説)を紹介したいと思います。ハノーバーメッセは、第4次産業革命やDXの中心の1つです。日本と海外とはDXの捉え方が随分異なり、そこにはパラドックス(逆説)ともいえる認識や考え方の相違があると思います。次に目標とすべきデジタルビジネスモデルとして提唱されている「エコシステムドライバ」、さらに「オペレーションズ・マネジメント」についてご紹介し、最後に九州地域の発展への示唆として「九州のポテンシャルとこれまでの取り組みや施策、バンカーへの期待」を述べさせていただきます。

1 「要素技術の活用に加えて」システムとしての産業社会“の再設計”という視点

ハノーバーメッセ2021については日本でも既に報道されています。FA・ロボティクス・AI・5Gなどの最先端の要素技術を活用した新しい製品やサービスの内容、特に協働型ロボットで応用範囲が拡大してきたこと、多様な分野でAIが活用されはじめたことなどが今年の話題として紹介されています。

一方、ハノーバーメッセでは、こうした要素技術だけでなく、第4次産業革命(インダストリー4.0)やDXについての話題が豊富で、いわば産業社会の仕組み、広い意味での「システム」、つまり産業社会システムの再設計を行っているという、いわゆる工学(エンジニアリング)を俯瞰する視点が底流にあります。

もともとインダストリー4.0は人工物の「プロダクトライフサイクル」全体を管理するためのデジタル技術、

1
「ハノーバーメッセ2021」
にみるDXを考える
4つのパラドックス(逆説)

各種の標準化、法制度やファイナンス、新しいビジネスモデルなどをテーマとして扱ってきました。プロダクトライフサイクル“とは、製品の企画・設計・開発、生産技術の設計・開発、製造と製造管理、製品の運用、保守さらに廃棄されるまでの製品ライフサイクル全体のことを指しています。

今年は、インダストリー4.0の目的としてサステナビリティが加えられ、サーキュラーエコノミーやカーボンのニュートラルなどのテーマがかなりの時間を割いて議論されました。

例えば、サーキュラーエコノミーは、日本では3Rの実践や消費者の動機づけのためのスローガンと捉えられることもまだ多いですが、この考え方は少し異なります。

製品の設計情報、生産技術（生産プロセスや設備設計）、製造時点の情報やトレーサビリティなどの情報をデジタル技術で管理し、企業間で幅広くデータを連携することで、リコールド対応はもとより、サーキュラーエコ

ノミーやカーボンニュートラルのための管理を行っていくという考え方です。つまり、サステナビリティ、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの実現にはデジタル技術が必須となるわけです。例えば、企業間データ連携の新しい仕組みとしてGAIAX（後述：1・3）が提案され、コンピュータ間で自動的に契約を交わし（スマートコントラクト）、自動的にデータ連携プロセスを進めるための法整備の検討が報告されました。

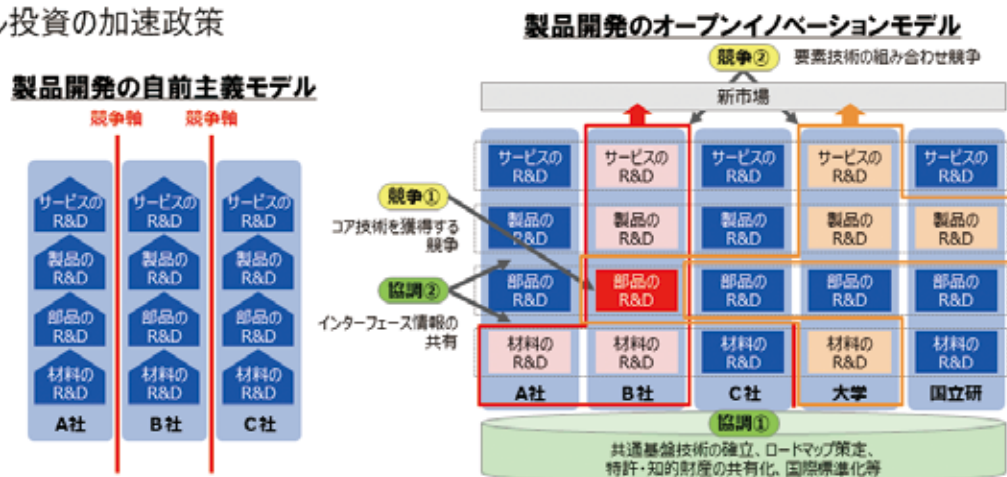
産業社会システムの再設計は、デジタル技術の応用だけではありません。各種の標準化や法制度整備を含め、一体的な施策がアクションプランとして議論されています。逆に、AIについては、EUでは適用分野によつては規制していくということも議論がなされ3年後から施行されることが決まっています。

ハノーバーメッセでは、要素技術の話よりも、その要素技術を繋ぎ、システムとしての産業社会をどう再設計

図1 オープンイノベーションにおける協調領域と競争領域

標準化の本質は、政策的なオープンイノベーションのためのアーキテクチャ設計

- 標準化の結果、製品・サービス（PSS）開発は自前主義からオープンイノベーションモデルへ
- モジュール開発①と要素技術の組み合わせのサービス開発②は競争
- 標準化はモジュール間インタフェースと R A
- モジュール投資の加速政策



出所) 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 電子・材料・ナノテクノロジー部長 岡田武氏の2015年1月講演(ものづくり日本会議) 資料にNRI加筆修正

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

NRI

資料)独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 電子・材料・ナノテクノロジー部長 岡田武氏の2015年1月講演(ものづくり日本会議)資料にNRI加筆修正

していくかという論点に対して、熱い議論がなされているのです。

2 標準化は産業システムの設計活動であり、オープンイノベーションの推進手段

第4次産業革命を提案した報告書によると、Acatech(ドイツ科学技術アカデミー)が政府に要請したことは、「オープンなコンソーシアム形式での標準化活動の推進への政府支援」です。日本では、この標準化活動はあまり強く認識されていないようにみえますが、実は最大のポイントです。標準化活動の本質は、政策的にオープンイノベーションを加速することとを目的とした「産業のアーキテクチャ(構造)設計」だからです。

左側が日本の典型的な製品開発モデルである「自前主義モデル」です(図1)。自前主義モデルは、競合する企業グループが、それぞれ製品組み立て会社、部品会社、材料会社、サー

ビス会社などを構成し、グループ間で競い合つて良い製品を作っていくモデルです。ちなみにこのモデルで1980年代、日本の家電・エレクトロニクスや自動車産業は世界を圧倒したといわれています。

日本の製造業に対抗するために、オープンイノベーションの加速政策として考案されたのが「政策的なオープンイノベーションモデル」です。新しい産業が勃興しつつある時に、その産業の代表的なユーザーを100社ぐらい集め、いつ頃どういう機能が必要となるのかについて徹底的に議論し要求機能をデザインしていきます。必要な機能内容が明らかになってくると、世界中から関心のある企業が100社、200社集まり、当該産業の内部構造(システムアーキテクチャ)を設計していきます。

システムアーキテクチャは、単純化すると多数の機能モジュールとこれらモジュール間のインターフェイス標準のことです。標準化活動とはこ

のシステムアーキテクチャの設計活動なのです。システムを全体として機能させるためのモジュール構成、モジュール間のインターオペラビリティ(別々に開発されたモジュールの相互運用性)を保証するのが、モジュール間のインターフェイス標準ということになります。モジュール間インターフェイスは公開されるので特許性はありません。このため、標準化活動は独占禁止法の適用外になります。

新しい産業が必要となった時に、いつ頃までにどんな機能が必要なのかということについてユーザーとベンダーでコンセンサスを形成し、同時にシステムアーキテクチャを早期に設計していくことが、オープンイノベーションを加速するのです。

では、なぜ産業のアーキテクチャ設計は、オープンイノベーションを加速するのでしょうか。世界中から当該分野に関心のある企業が何百社も集まって議論していくと、例えば、あ

る特定モジュール機能についてはA社が既に保有している技術が有効だということがわかってきます。他の機能モジュールについてはB社、C社...ということがわかってきます。この結果、現段階では誰も保有しておらず、新しく開発しなくてはいけない「ミッシングリンク」のモジュール機能が自然と炙り出されてくるわけです。どの機能モジュールを開発すればビジネスになるのかが分かってくると、そこに対してリスクマネーが投資するスタートアップ企業が生まれます。こういう仕組みでオープンイノベーションを推進することが戦略的な産業政策となってきたのです。

日本企業の経営層の方で、標準化活動がいわば新しい市場や産業を創造するマーケティング活動の一環だという認識を持たれている方はまだ少数派だと思います。一方、こうした取り組みは、この20年、多様な領域で起きてきています。スマートグリッド、モバイルリテイル・イニシアティブな

でもそうです。インダストリー4・0やDXも同様なのです。

日本ではとすると「標準化はイノベーションを阻害する」という誤解が多いので繰り返すと、標準化活動は特許性のある特定モジュールの技術そのものを標準化することではないのです。標準化の対象はモジュール間のインターフェイスです。インターオペラビリティ(相互運用性)が担保されているインターフェイス標準があることによって、いつでもモジュールを組み替え可能(コンポーザブル)にすることが出来ます。組み合わせ可能ということが新規参入を容易とするため、産業のイノベーションが加速するという比較的普遍的なエンジニアリングの考え方です。日本で提唱された「コネクティッドインダストリ」もこれが狙いでした。コンポーザブルなモジュールから構成される産業の形態は「エコシステム」と呼ばれます。

科学技術政策の基本的な考え方

では、標準化活動を通じた「政策的なオープンイノベーションモデル」の方が、旧来の「自前主義」より優れていると考えられています。理由は4点、ユーザーを組み込んだ産業の機能デザインによる確実なマーケティング、モジュール機能の明確化による技術開発の目標設定、ミッシングリンクの発見による効果的なファイナンス、組み換え可能な構造がもたらす^{じゅうし}上市後の継続的なイノベーションです。

3 分散型データ保有とアドホック連携／新たなデータ連携の仕組み“G A I A・X”

2 のモジュール間のインターフェイスがデータ連携の領域まで達しているという話が次のテーマです。データドリブン経営のためには「目的が定まっていなくても、とにかくできるだけ自社のデータを早期に蓄積しておくことが効果的」とのベンダー側の営業

トークは日本では多いようです。

一方、必要なデータは自社が保有しているとは限らないので、例えば機械メーカーであればユーザーの当該機械の稼働の詳細データなど、多様な企業が持っている幅広い範囲のデータ連携を、企業間でできるだけ円滑に実現していく方法が欧州発で提案されています。この新たなデータ連携方法がG A I A・Xです。

2019年、ドイツとフランスは、EUのレベルでのデータ連携や活用基盤としてのクラウドサービスのインフラ整備を発表しました。業界を超えて、分野を超えてクラウド技術を使いながらデータが共有されます。

G A I A・Xは、巨大なデータベースをつくるというわけではありません。必要なデータを必要な時にマシンtoマシンで時間を区切った契約を自動的に行うことで、ユーザーから見た時に、あたかも1つの仕組みとして動いているような世界を自律分散協調型で創造しようということです。

データは、データ所有者が保有・管理をし、アドホックにスマートコントラクトを活用して、コンピュータ間でプロセスを管理し、企業間でデータを連携する仕掛けとします。これがG A I A・Xのコンセプトです。

4 製造業のサービス産業化(サービタイゼーション)

製造業のサービス化は、日本でも既に話題です。しかし、モノからコトへ、と言い換えられ「製品出荷だけでなく保守運用サービスまでを」コトとしてサービス提供するという、単に「自社の製品に+αの保守サービスを併せて提供すること」と理解されているとすれば、それは話がかなり矮小化されていると思います。単なる「コト」という言葉では製造業のサービタイゼーションの考え方とはかなり乖離していると思います。

ところで少し古い話になりますが、ガラケーからスマートフォンへの変

化はどのように捉えられていますか。
日本(だけ)はガラケーがありましたので、スマートフォンへの変化は、ユー

ザインターフェイスが抜群に優れていると感じたとしても、機能的に新しいものが豊富にあったのかという当初は必ずしもそうでもありませんでした。このため、スマートフォンショックというべきショックは日本ではあまり強くなかったかもしれせん。また、「スマートフォンは、アプリサービスが後から追加できるオープンなプラットフォームサービスとなっている。これが製造業のサービス化だ」というのもまだ認識としては不十分ではないでしょうか。スマートフォンが主語だからです。

スマートフォン上ではGAF Aに代表されるアプリ会社が、ターゲット広告、シェアリングエコノミー、ソーシャル広告などのソリューションサービスを提供しています。では、GAF Aのこうしたソリューションサービスの事業価値が極めて高く評

価されているのはなぜでしょうか。ここに製造業のサービス化を考えるヒントがあります。

理由はビジネスモデルとして優れているからです。3つあります。まず、スマートフォンは短期間で既に世界200カ国に展開できているということです。これから成長する新興国に対して既に参入できていて、今後成長する世界の新興国の経済成長とともに事業成長できる可能性が高いということです。次に、ソリューションの必要経営資源は基本ソフトウェアなので、限界費用ゼロ、つまりコピーすればいくらでもスケールアウトできる経営資源であるということです。さらに、ソリューションはサービス事業なので事業が安定しています。景気変動の影響を受けやすい製造設備産業から考えると垂涎的のです。

この3つが揃うと喜ぶのは投資家です。投資家は今期の売上よりも今後の成長を買うからです。株式時価

総額が上がります。これがGAF Aのビジネスモデルが高く評価される理由なのです。

これと同じビジネスモデルを製造業で実現できないかと考えたのが、欧米の製造業でした。工場に各種センサーを配置、これまでのERP、PLM、MESなどのエンタープライズソフトウェア、AI、クラウド技術を活用して製造拠点の高速展開や改善活動、アセットパフォーマンス管理などを製造業の支援サービスとして成長性の高い新興国で展開してみているのか、またビルや病院、エレベーターや交通基盤などの社会基盤の運用保守・エネルギーマネジメントなどもサービスビジネスとして事業化してみようというのが、彼らが考えたインダストリー4.0の典型的なビジネスモデルです。ベンダーからみて確実なROIが見込める新規投資に躊躇するユーザーがいたら、ベンダーが投資を行うことも厭わないサービスビジネスです。こうなると

もはや自社の設備機器を販売する必要すらありません。これが製造業のサービス化、サービス化と呼ばれる現象です。実際、ドイツの企業ではインドの製造業に対し、生産技術や製造管理技術の指導サービス、いわゆるマザー工場機能サービスを長期契約で行うことが始まっていますし、ビルや病院の空調、エレベーター設備への投資とエネルギーマネジメントをファイナンスから運用保守までを二括して請負、長期契約でエネルギー費用の削減に応じて対価を得るというビジネスモデルも実は既に展開されています。もはやユーザーが投資する必要すらなくなったということです。

実は、製造業のサービス化は、日本は日本のコマツが南米の鉱山との契約を、採掘に関わる機械1台あたりいくらという製品販売サービスではなく、トン当たりいくらという長期契約を締結したということの分析と研究がその発祥でした。このこと

を指摘したのは米国有数のビジネススクールであるペンシルバニア大学ウォートンスクールのモリスコーエン教授です。私が教授の講演を聴いたのは2013年のことです。

2 デジタルビジネスモデルの 目的地 「エコシステムドライバー」

1 エコシステムドライバーとは

エコシステムドライバーとは、マサチューセッツ工科大学のピーター・ウェイル教授が多数のケース分析から発見したDXで最も重要なビジネスモデルの考え方です。

DXのビジネスモデルを理解するために、ピーター・ウェイル教授は4象限のフレームワークを提案しています(図2)。左側はオムニチャンネルと

サプライヤーです。サプライヤーというのは、代理店契約の保険会社とか小売店経由の家電メーカーなどにあたり、いわゆる要素を売っています。オムニチャンネルは、銀行、小売、エネルギー企業、通信会社、調達商社などの、お客さんのフロントにいるビジネスです。このオムニチャンネルとサプライヤーは、以前からあるビジネスモデルを2つに区分したといえるでしょう。

では、右側はどうでしょうか。モジュラープロデューサーは、サプライヤーに近い立場ですが、供給している製品、サービスがモジュール化されている、つまり国際標準のインターフェイスに対応していて、モジュール間のインターオペラビリティ(相互運用性)を保証しており、いつでも組み替えが利く(＝コンポーザブルな)形でモジュールを提供しているビジネスを指します。

エコシステムドライバーは、顧客に対して必要十分なPSS(プロダク

トサービスシステム)モジュールを組み合わせ、常にお客さんのフロント、オムニチャンネルのポジションを維持できる企業です。ある特定モジュールイノベーションが起きればモジュール単位でイノベーションを取り込むことができるわけです。

エコシステムドライバーは、顧客フロントのポジションを確立するために、自社製品を補完する製品、場合によっては競争相手の製品やサービスを取り込みます。最高の顧客体験を保証し、顧客とのやり取りから顧客データを取得、顧客のニーズとPSS(製品サービス)提供者とのコーディネーションサービスを提供し、価値を創造する。顧客が生産性を上げていくことを支援しつつ場の使用料を徴収する仕組みです。

ピーター・ウェイル教授は、デジタルビジネスモデルの究極の姿が「エコシステムドライバー」であり、エコシステムドライバーの事業機会を徹底的に探索することを提案しています。

図2 デジタルビジネスモデル (DBM) のフレームワーク



資料) ©2017 MITスローン経営大学院情報システム研究センター資料にNRI加筆

2 ビジネス・エコシステムのケース 「すでに複数のエコシステムが 台頭」

DXやIoT、第4次産業革命の波は、工場が応用の場所として語られることが多いため、ロボットメーカー、工作機械メーカー、ユーザーである自動車メーカーや重工業メーカー

などのいわゆる加工組立型の機械産業が先端だと考えられている方も多いと思います。しかしながら、実はこれらの産業は、巨大で複雑な産業構造であり、かつ品質管理や安全確保が非常に厳しいため他の産業と比較すると決して早期に始まったわけではなく、むしろようやく始まったという見の方が正確だと思います。

逆に、要素モジュールを組み換え可能な形で提供するエコシステムドライバというビジネスモデルは、他の産業では既に具体化してきています。たとえばアパレルのSCMネットワーク、国際物流の情報ネットワーク、社会基盤のアセットライフサイクル管理では既に巨大なエコシステムドライバが台頭し、関連する様々なビジネスが生まれてきています。もともと日本にいたるとあまり気がつかないかもしれませんが、なぜなら日本ではこれらはまだ顕在化していないからです。

具体的な事例をいくつかご紹介し

ましよう。例えばアパレルですが、アジアを含む海外では、概ね10数年前の非常に早期に複数のモジュールプロバイダーから構成されるエコシステムが台頭してきています。

例えば、商品企画、デザインから素材の選定、パターンの作成、原価シミュレーションなど製品開発に関わる業務がクラウド上のシミュレーションで全てできるようになっています(図3)。

さらに、欧米のブランドホルダーのバイヤー、香港の商社、縫製工場など複数のアドホックに構成されたチームがテレビ会議のような形でクラウドソーシングをその場で操作しながら、会話をしながら製品の企画開発、調達、製造能力のブックイングなどの意思決定がなされていきます。3Dのコンピュータグラフィックスのシミュレーションが出来ると、2Dのパターン(型紙)デザインのところは自動的に、かつ双方向で試行錯誤できます。これは25年前からあるソフト

図3 アパレル業界のプラットフォームの事例

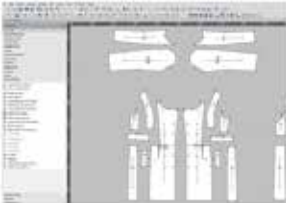
OPTITEX

■ OPTITEX

➤ 1988年にイスラエル創業のアパレルおよびソフトグッズ(糸もの) 業界向けの統合2D/3Dソフトウェアソリューション

■ 主な機能

2D パターン・デザイン



強力な編集ツールにより、デジタルパターンを最初からドラフトし、編集し、完成

3D ファブリックシミュレーション



デザインより、正確なファブリックシミュレーションを表示。照明・影の強度によって、リアルな360°画像を作成

スタイル・カラーシミュレーション



スタイル・カラーを表示し、ファブリック、テクスチャ、ステッチ、ボタン、およびロゴの印刷配置を決定

張力マップ着心地シミュレーション



ファブリック・デザインによる張力マップを作成し、事前に着心地を確認

動画) "3D is changing Fashion" <<https://www.youtube.com/watch?v=GMCDicU1gkM&t=3s>> 2:33

"Shaping the future of Apparel & Fashion" <<https://www.youtube.com/watch?v=JrwMdi4VvMLg>> 2:08

出典) OPTITEX webサイト <<https://optitex.com>>

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. **NRI**

資料) OPTITEX webサイト <https://optitex.com>

57 FFG MONTHLY SURVEY Vol.140

ウェアなのですが、クラウド上で動くようになったために、グローバルなコラボレーションが一気に進展しました。2Dのパターン情報はCAMに取り込まれ、グレーディングやカッティングの最適化がなされた後、裁断が行われます。全てデジタルで迅速にできる仕組みです。この背景には、各種のソフトウェア間、ソフトウェア間のインターフェイス標準があります。

さらに生産管理業務では、世界中の数万の工場がネットワーク化されていて、サンプル作成、資材調達、縫製の生産能力の予約、計画発注、製造進捗管理、国際的な物流管理までの業務がクラウド上で実現しています。もちろん、デジタル技術だけでなく、これらの調達・生産・配送管理業務について、顧客の役割を代替するエージェント企業が台頭してきています。一方、ブランドホルダーは、製造前から3DのCGを利用したSNSでの顧客とのコミュニケーションを通じ、

顧客の反応に応じ最終的な生産量の調整を行うという具合です。これはもう10数年前から行われている”現実”です。

物流分野においては、煩雑で緻密な書類手続きが必要だった国際貿易物流分野でブレイクスルーが起きました。煩雑な書類作成業務を円滑に行うため、メッセージの国際標準化が1990年初頭にほぼ完成しました。これをうまく利用した企業の1つが、シンガポール港湾局PSAの海外サービス提供部門、PSA Internationalです。PSA Internationalは、シンガポールのコンテナターミナルの運用ソフトを活用して、高度なコンテナターミナル運用サービスを外部サービス提供しているエコシステムドライバースです。現在16カ国約40港湾、それも欧州や米国などの巨大港湾でのコンテナターミナルの運用サービスを行っています。

PSAの何が高度なのでしょう

か。シンガポールに行かれた方は、シンガポールのコンテナターミナルの外見が日本と大きく異なることに驚かれた方も多いと思います。コンテナが数段高く積み上げられていて多数のガントリークレーンが忙しく動いていますね。日本のコンテナターミナルの1バス当たり取扱量の10数倍です。で忙しくみえるはずですが、さらに、よく観察しているとすぐにわかることがあります。トラックがコンテナを引き取りにくるのですが、トラックはほとんど待ち時間無くコンテナヤードに入っていく、待ち時間なく数段積みまれているコンテナの一番上からトラックに積み付けられていくことが観察できます。一見単純に見えるこの一連の動きの背後には、船会社とコンテナターミナル、ターミナルとトラックとの間の緻密なスケジュール調整とコンテナターミナルのオペレーションの最適スケジュールリングアルゴリズムがあります。ターミナルは船会社から入港48時間前までにコンテナ

船の積み付けプランを入手、コンテナNo.ごとにトラックの引取り時間の調整をトラックと行い、動的にコンテナターミナルのシャッフルのパズルを解き、スケジュールリングする動的な最適化システムが常時稼働しているのです。

通常の港湾では取り扱いコンテナ貨物量の拡大に応じて、船会社に専用バースを充てるため、バースやヤードを拡大していくハード投資が必要となり、そのための投資コストは巨額になります。シンガポール港のターミナル運営サービスを利用すれば、コンテナヤードの空間の高さまで高度に活用できるので、世界中の港で重宝されており、同時に非常に収益性の高いサービスビジネスになっています。

ではなぜPSA Internationalは容易にグローバル展開できたのでしょうか。それは、複雑な貿易物流に関わる主体間で交わされるドキュメントやメッセージ、つまりインターフェイス

が早期に国際標準化され、全く同じ

ソフトウェアが世界中で利用できるからです。国際標準のインターフェイスができたことで、世界中どこでも全く同じシステムが使えるようになったその事業機会を逃さなかったのがP S Aだったのです。もちろんP S Aだけではなく、香港のハチソングループのH I Tも同様のサービスを展開しています。この2つのコンテナターミナルのオペレータが世界のコンテナターミナルの運営を寡占的にサービスする日も近いでしょう。

この他、荷主から国際的な物流手配業務を一括して引き受ける3 P Lや国際フレートフォワーダーという業界が活用するクラウドサービスもエコシステムドライバのポジションに在るといえるかもしれません。世界中の同業種や通関当局、キャリア、金融機関などとワンストップで連携できるクラウドサービスが既に複数台頭してきています。これも国際物流分野の国際標準の早期確立

がその背景にあります。

3

整備すべきオペレーションズ・マネジメントの学習機会

D Xの本質は、センサー、A Iやデータサイエンスという要素技術ではありません。産業社会システムの変化、デジタルなエコシステムへの転換です。なぜ、要素技術よりもシステムが重要か“というと、個々の組織が部分最適を追求するだけでは、機敏な企業経営や産業大のシステム調整に時間を要してしまうからです。この調整を容易にする仕組みがアーキテクチャ設計です。

機能組織横断で業務プロセス全体を視野にいたれたマネジメントを行うことがデジタル技術で可能となってきました。D Xで組織やエコシステムの全体最適を志向するためには、

業務プロセスの設計と運用管理を

一貫した責任組織で行うことが効果的です。このため、これを担う組織を新設することが効果的でしょう。逆に、組織管理が部分最適のK P IではD Xの効果は乏しいでしょう。これは日本企業が陥りやすい罠です。日本で伝統的に採用されているマネジメント手法は、縦割りの機能組織で、組織ごとにK P Iが設定され各組織が半ば競争しながら切磋琢磨していきます。この管理方法は分割統治(デバイド&ルール、デバイド&コントロール)と呼ばれます。この方法は、もともとは植民地統治のために採用された管理方法で、かつ大量生産大量消費の時代に一時成功したマネジメントモデルです。少数のエリートが大多数の現地住民を統治するには、分割統治の方法が容易なために採用されたわけです。植民地では全体最適での繁栄は、少数の宗主国エリートの支配の安定よりも優先順位が低かったから

です。

こうした経営や産業政策の知識体系は「オペレーションズ・マネジメント」として整理され研究・教育されています。実はオペレーションズ・マネジメントは日本発の経営理論と言ってもよい分野なのです。1980年代にトヨタ自動車アメリカに進出したとき、アメリカのビジネススクールの先生が、トヨタの圧倒的に高いパフォーマンスに驚きました。このためトヨタ生産方式を徹底的に分析して、大統領報告まで行い、ビジネススクールの科目が一つ追加されました。それがオペレーションズ・マネジメントです。今、教授陣が米国で1万人、欧州で5,000人います。世界のエリートはここで学んでいます。

マーケティング、ファイナンス、人的資源管理、経営戦略に加えて、今やM B Aの主要科目の1つになった「オペレーションズ・マネジメント」が、飛躍的に高度化するデジタル技術をいかに経営へ応用するかについて

研究・教育を行っている学問分野なのです。

米国や欧州、ドイツでは、オペレーションズ・マネジメントやCPS(サイバーフィジカルシステム)、インダストリー4.0の社会人向け教育機関があり、経営者から現場の人までが学習できる機会が整備されています。シンガポールARTCでも様々なテーマで、経営者のための学習機会やワークショップ、ハンズオンのワークショップ、POCプロジェクトサービスなどを提供しています。一泊二日ぐらいで、経営にとつてのDXの本質は何かというポイントが実感をもって学習できるカリキュラムになっています。

一方、日本発であるにもかかわらず、日本では経営層がオペレーションズ・マネジメントを学ぶ機会ほとんどありません。大きな問題です。日本ではビジネススクールが極めて少ないことが理由の一つです。私は週末や1週間コースなどの短期の社会人リカ

レント教育として「オペレーションズ・マネジメント」の学習機会を整備すべきと思います。日本でも、高度経済成長期に隆盛を誇っていた経営工学という学問分野があります。大学への交付金が減らされる中で文系・理系の境界領域ということもあり、学科や研究者の数は減少しつつありますが、オペレーションズ・マネジメントを研究・教育できる教授陣がいなというわけではありません。まだ間に合います。

4 九州での取り組みと バンカーへの期待

九州では、2017年から九州各県の関連企業の役員レベルの方々約30名に集まっていたとき、インダストリー4.0、DXを九州でどう推進するべきか検討する研究会が九

図4 九州での経営者向けオペレーションズ・マネジメントスクールの事例

北九州で第4次産業革命に関するビジネススクール開催

実証ラボ×リカレント教育の一貫の活動

- 【内閣府 地方大学・地域産業創成交付金 採択事業】
- 北九州市ロボットテクノロジーを活用した地方大学・地域産業創生事業。北九州高専が主宰。

The image shows two promotional posters for a business school event. The left poster is titled "第4次産業革命 エグゼクティブ ビジネススクール" (4th Industrial Revolution Executive Business School) and features a photo of a workshop. The right poster is titled "第4次産業革命の中で「人手不足」を乗り越え、「業務革新」「事業成長」「技術継承」を実現する。" (Overcoming "labor shortage" in the 4th industrial revolution to realize "business innovation", "business growth", and "technology inheritance".) and lists speakers and a program schedule.

資料)NRI作成

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. NRI

州経済産業局や九州オープンイノベーションセンターにより設置されました。研究会で議論する中で、最大の

問題は、海外の情報を入手することが極めて難しいことと指摘され、

九州の企業の経営層が本気で学習できる場所を設けるべき」というのが

最大の提言でした。こうして九州各県や政令指定都市で拠点を設け、九州全体で相互の情報交換を行い

つつ、まず経営者向けのカリキュラムを設計しようということになりました。

EUや米国、シンガポールで企業向けに提供されているカリキュラムをモデルとし、経済産業省製造産業局、北九州高専と早稲田大学大学院情報生産システム研究科の教授陣がカリキュラム開発を行い、経営者のための一泊二日×数回のエグゼクティブビジネススクールを開催しています。(図4)。今年3年目になります。

実は、日本の中堅中小の製造業は、製造技術と加工精度と品質管理

能力が極めて素晴らしく、世界の金融機関から注目されています。例えば東南アジアの投資銀行は、日本の中

小製造業と、東南アジアの製造業とを提携させて、事業拡大させたいという要望を極めて強くお持ちです。

実際、東南アジアの投資銀行は日本の地方銀行に地元の中小製造業の紹介を依頼されているケースが増えてきています。

地元の金融機関が中小製造業を10社ご紹介して1週間のツアーを組みます。売上規模から考えると全部で数百億円〜千億くらいの企業価値になるので、一部出資でもかなりのデールになると考え同行します。金曜日の夕方に「いかがでしょう？」と尋ねた際の投資銀行の回答は、バンカーの想像を超えるものでした。

「残念ながら1社も投資適格要件を満たしません。理由は製造管理技術、経営管理技術の問題です。スケジューリングはホワイトボードでの

会議、品質管理は退職したシニアの嘱託の管理者の経験と勘、見積や原価管理はエクセルシートです。

WTOで推進されている標準原価計算も原価差異分析もなされていない。ERPすら導入されていない。

MESやPLMなど程遠いですね。何故でしょうか、理解に苦しみます。もつと普通の会社を紹介してください。」

製造している製品や部品の品質は極めて素晴らしく、世界に冠たる技術は確かにある。それなのに企業価値が評価に値しない。これでは投資できないというわけです。これは大変大きな機会損失ではないかと思えます。このことから、九州でも世界のDXやオペレーションズ・マネジメント動向を踏まえ、経営者教育を進めることが重要と思います。誰も真似できない日本が誇る貴重な暗黙知の

技術を、デジタル技術で形式知化・組織知化しスケールアウトできる基礎体力を獲得、エコシステムを意識した

成長戦略を経営戦略に実装していただきたいのです。

冒頭、地元バンカーの行動が期待されると言いましたが、今、地域の製造業の事業承継では経営人材の確保が難しいと指摘されています。

地銀バンカーは地元のことも、財務ファイナンスもすでによくご存じです。バンカーがデジタル技術を活用することにより、本格的に製造業DX

やオペレーションズ・マネジメントを学習し、地域製造業のCEOになつていくことが、強く期待されていると思っています。日本の産業革命を成し遂げた九州で、デジタル技術を活用し、世界に冠たる技術力を基礎として世界展開する成長戦略を立案、地域一丸となって実現していく。皆様の取り組みを期待しこれからも応援したいと思っています。

構成・編集

公益財団法人九州経済調査協会

事業開発部 松永奈々

母校の逸品



FILE.11

「がんばっ東鷹!」を合言葉に
生徒たちが商品開発!

田川めし ビビンバの素



簡単においしく作れるビビンバの素

2合用(100g×1袋)

田川めしは、東鷹高校総合生活科の商品開発プロジェクトから生まれ、地元の食材を使ったまぜこみご飯の素です。生徒たちでレシピを考え、実習で切りそろえた田川産のきくらげ、ごぼう、唐辛子、手作りにこだわったゆず胡椒を配合しています。

焼きそばのソースやフライパンで作る石焼ビビンバなど手軽に
おいしくアレンジできます。

通販はこちら

購入可能店舗

(株)井筒屋田川ショップ、福岡県庁11F 福岡よかもん
ひろば!、福岡・小倉リーセントホテル ほか



福岡県立
東鷹高等学校
田川市大字伊田
2362番3





2



3



1

① 遙か佐賀・長崎の山々を望む筆者 ② まだ小さいナマズくん ③ これが話題の外来魚、ブラックバス

本日の釣り道は水郷・柳川にてナマズを釣る

筑後平野と佐賀平野を流れる河川は、有明海沿岸部に地域特有の干潟を形成し、ここにしか生息しない多様な珍しい生物を育んでいます。

人々は、注ぎ込む川の流れを少しでも暮らす地域に留め潤そうと灌漑を行い、農業用水を整備し、掘割を網の目の様に張り巡らしました。その名残がクリークとなり、柳川周辺は水郷と呼ばれてきました。

この地から、四方を眺めると西には普賢岳や太良岳、北西には背振山地や天山を望み、夕陽が麦の穂を照らします。いにしえびとも同じ景色を見ていたのでしょうか。有明海沿岸に生息する、むつごろうや、ワラスボ、エツなどの固有種は有名ですが、それらのクリークには、実は日本古来の生物以外にも、外国からの外来生物が狭い水路の中に、たくさんひしめきあっています。

アメリカザリガニやジャンボタニシ、アカミミガメ、ブルーギルの他、問題とされているブラッ

クバスや、ソウギョ・レンギョやドイト鯉などの大型の魚類もいます。

取引先からの帰り道、うなぎの蒲焼の香ばしい香りに誘われた筆者は、水路のほとりを歩いていました。穏やかな水面の中のそんないきもの達の顔を見てみたくなりしました。

筆者は、様子見に金属片の疑似餌(スプーン)を取り出し、堰の下側に放りました。すると手元に「ドンッ」と衝撃が来てさおが弓なりに絞り込まれます。数分の格闘の後、黒い魚体が現れました。

見るとビミョーに小さい30cmくらいのナマズくん(笑) 大物は畏怖さを感じる風体のナマズですが、コヤツはまだ小さく幼げでとぼけた風貌です。一瞬、蒲焼が脳裏に浮かびましたが、こいつも獐犢な外来生物達とのサバイバルを逞しく生き残ってんだなと、少し励まされた気分になり、「おまえも頑張んな！ おれも頑張るよ(泣)」って声をかけてしまいました。

佐世保の美しい景色を
ドローン撮影で世界に発信！

九州の星

Star of Kyushu

| 69 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです

葛城さんがドローンで撮影した九十九島

ドローンフォトグラファー



本誌 8・9 月合併号の表紙は葛城さんの写真

葛城 和久

KATSURAGI KAZUHISA

ドローンフォトグラファー
長崎県佐世保市出身・在住

ホームページ



YouTube



▲音楽ユニット「サンディトリップ」のKAZUとしても活動

世界中でバズる景色を撮りたい

ドローンを駆使し、今まで見たことのない視点から佐世保の美しい景色を撮るフォトグラファー葛城和久さん。

佐世保で生まれ育ち、「英国でバンドマンになる」ことを夢見て中学を卒業後、英国の音楽学校に留学。「23歳の時に帰国しましたが、心配して一緒にいてきた母の方が英国暮らしを気に入って、僕が帰国した後も永住権を取得して住み着いています」

帰国後は音楽ユニット「サンディトリップ」を結成し、「KAZU」としてギターや作曲を担当。2008年には佐世保観光ふるさと大使(初代)に就任した。

2012年、家族写真を撮る目的で

購入した一眼レフが写真との出会いだった。九十九島の風景を撮るようになると才能が開花し、わずか数年で全国のアートコンテストで入賞するほどになった。

今は2016年から使い始めたドローンに夢中だ。「三脚で固定されていたカメラが、ドローンになるとアングルが自由になる。開放感があり見たことのない景色が広がり、すっかり魅了されました」

葛城さんの音楽活動や写真に共通するのは、地元・佐世保への愛。

「今は地元しながらSNSで世界に発信できるのが強み。世界中でバズるような、佐世保のまだ誰も見たことがない風景を撮りたいです」



僕たちが住みたい「みなとまち」をつくる

—あいだをつなぐみなと SASEBO RE PORT—



REPORT(リポート)の 中尾と申します。

今回、僕の住む佐世保や、このまちで仲間と取り組んでいるプロジェクトに光を当ててくださり光栄です！10年続けてきてよかった。これまでと、これからの活動のこと。悩み、考え、行動してきたことがうまくお伝えできると、写真や画像を交えながらがんばって書きます。

僕は現在、佐世保市役所で公務員として働きつつ、「RE PORT」という事業に取り組んでいます。現在の事業の柱は、佐世保港にほど近い万津町というまちで営むカフェ(RE



Profile

一般社団法人REPORT SASEBO 代表理事
佐世保市役所 企画部文化振興課 主査

なか お ひろ き
中尾 大樹

1983年 長崎県佐世保市生まれ
2002年 青山学院大学文学部心理学科入学
2006年 佐世保にUターン、佐世保市役所入庁
2008年 自主研究グループ「交点」スタート
2015年 妻とカフェ「RE PORT」オープン
2018年 エリアマネジメント「万津6区」立ち上げ
2019年 各プロジェクトを統合、
一般社団法人REPORT SASEBO設立
2021年 ホテルプロジェクト「RE SORT」スタート

PORT)で、この場所を起点に、イベント企画のほか、商品開発やデザイン、小さなエリア単位のまちづくりの支援など、佐世保の価値を「リポート」して可視化していくことをミッションとして活動を行っています。

【画像1】カフェ・REPORT

毎年なにかしらの事件が起こりますが(現在はコロナ)、なんとかもうすぐで丸6年を迎えるカフェで、僕らの活動拠点。海をイメージしたブルー、山をイメージしたグリーンの街をイメージしたグレーの3色をキーカラーとしたこの場所も、僕たちの考える佐世保らしい



画像
1



空間を目に見る形にしてみようというひとつのチャレンジ。シフォンケーキが人気で、不定期でイベントも開催中。

画像
2



【画像2】REPORTがある 万津町(万津6区)

「三ヶ町、四ヶ町、五番街と続く佐世保のまちの端っこ、海のそばにある万津町。夜明け前、朝市に集う人々、小さな商いははじめた若者たち。道ばたを歩く猫と、旅人を運ぶ汽笛の音。かつて交通の要所としてにぎわったこの場所で、今再び、心地よい出会いの風景が生まれはじめています。懐かしさと新しさが交差する6つめのまち。それが万津6区です。」とみなさんにご紹介している小さなみなとまち。

画像
3



【画像3】REPORTのロゴ

海・島・船をイメージして作ってもらったREPORTのロゴ。『僕たちの暮らす佐世保ぐるりのよい！と感
じる生活を自ら
実践したり、実
践している人や
ものごとをリ

これらの活動は、現在、2019年7月1日(佐世保の開港記念日)に法人化した「一般社団法人REPORT SASEBO」にて、これまで出会ったすこし変わった仲間たちと取り組んでいます。役員6名、クルー11名と事業規模の割に割と大所帯。役員は公務員のほか、グラフィックデザイナー、景観・まちづくりプランナー、観光アドバイザー、ホテルディベロッパーと別に本業を持ち、基本的に無報酬(変でしょ)。クルーも主婦や学生、アート作家など、もう一つの顔があつて、それが僕らのチームの特徴といえるかも知れません。

画像
4



【画像4】役員(の一部)

住まいもバラバラで、なかなか全員集合できませんが、活動が続ける中で、偶然(必然!?)出会った仲間たち。『新しく、このまちらしく、人間らしい』ことをつくる『を合言葉に、今このまちにはないけど、実はこのまちならではの、自分たちが心から生き生きとしていられる場所、そしてその場が続いていく仕組み(しごと)をつくっていくことを実践中。』



佐世保を象徴する

二つの海（みなとまち）を 舞台にしたまちづくり

また、近ごろは、有史以前から、佐世保を代表する景勝地である「十九島」を抱く俵ヶ浦半島や、軍港設置以降、近代佐世保の象徴となった「佐世保港」の玄関口、万津町のエリアマネジメント（という和大仰ですが、おせっかい焼きの活動）に楽しみながら関わらせてもらっています。俵ヶ浦半島では、行政支援のもと住民総出で作った将来計画の実行段階におけるお手伝い（地域がいかに経済と付き合っていくのか、がテーマ）、万津町では、自治会と商業者が一体となったまちのブランディング（経済がいかに地域と向き合っていくのか、がテーマ）に携わっています。どちらも顔の見える人たちと二人三脚で取り組む、三歩進んで二歩下がるような気の長い……よく言えば一生をかけたライフワークとなりそうです。

【画像5】 九十九島

空気が澄みきる2月が一番美しいと、誰かが言っていた海。が、至近距離で観察すると思いのほかワイルドな自然景観。



九十九島

【画像6】 佐世保港

山と海に隠されたような、と、誰かが言っていた港。と、そこに立ち現れるギャップを孕んだインダストリアルな都市景観。



佐世保港

【画像7】 俵ヶ浦半島での取り組み

九十九島を臨む半島で、半農半漁の生活、生業に根差した美しい風景を守るために、地域がビジネスに取り組んでいくプロジェクトのお手伝い。地元産品を活用した商品開発（ハーププロジェクトほか）や、地元を内外にPRする取り組み（東京と佐世保MTG、菜の花・コスモスウォークの企画など）を支援しながら、僕らも一緒に学びを重ねています。



俵ヶ浦「東京と佐世保MTG」



ワイルドな佐世保



インダストリアルな佐世保



自分たちでペイント作業



自治会と行うマーケット餅つき

【画像8】万津町(万津6区)での取り組み

市中心部にありながら、新旧の要素が混在する小さなエリアにおけるまちづくりの取り組み。自治会のみなさんは、住みながらこのまちで小商いをされてきた方も多く、若者のチャレンジにもおおらか。まちの持つD-I-Yなムードや、離島航路を持ち、物流の拠点であった古い倉庫街のイメージを踏まえたロゴ・ビジュアル制作、住民と一緒にあったイベントづくりを企画、実施しています。

個人的に、佐世保を佐世保たらしめているこの対照的な2つの海こそが佐世保の二大ルーツであると感じていて、一ファンとして、まがりなりにも事業という形で、その海のそばに位置する2つのみなとまちに関われることは存外の喜びです。

ちよつと脱線するようですが、僕が心惹かれる佐世保の面白さは、このように落差のある2つのもの(例えば、都市と自然、軍港と商港、日本人とアメリカ人、理想と現実…といった)の物理的近接と、その結果として

の共存が醸し出す、ある種のねじれ、モヤモヤ、屈託、をまるっと受け入れ、やさしく、たくましく生きる人たちにあって考えています。

市職員(A面)として、REPORT代表(B面)として

これらの活動の前提、ベースとして、佐世保市職員としての仕事があります。もともと僕は、佐世保にUターンで帰ってくるまで、佐世保のことをほとんど知らないし、割にあまり好きではないという食わず嫌い状態。戻ってきたのもたまたま佐世保市役所だけが拾ってくれたからで、そもそも公務員という職を選んだのも安定とプライベートを充実させるため、というネガティブな選択。

そんな中、まちなかに住み、徒歩生活圏の中で、入り組んだ坂道やSSK、米軍基地などコンパクトで男前な街並みを新鮮に感じ始めていた矢先、地域にデザインや編集を取

り入れた面白い事例や取り組みと出会います。特に影響を受けたのは、当時注目を集めはじめていた波佐見・西の原エリア、そして、北九州市が発行していた「雲のうえ」というフリーペーパーでした。いずれも地域を再編集し新たな価値を与える新しい取り組みで、それぞれ話を聞かせてもらったり、内外の様々なコミュニティに出入りさせてもらい刺激を受けました。自分自身、市役所の仕事を通じて、故郷・佐世保をもっと面白くできるのではないかと考えるきっかけにもなり、自己研鑽も兼ねて、佐世保の可能性を学びなおすイベント等の活動(自主研究グループ「交点」を友人とスタートさせることとなります)。

【画像9】自主研究グループ

「交点」の活動

自主研究グループ「交点」では、佐世保にゆかりのある面白い大人をお招きし、話を聞き、お酒を囲んで語り合うというイベント「リポー



画像
9



レポートサロン



佐世保レトログラフィ

トサロン」や、写真が趣味の市外の若者をターゲットにした観光プログラム「佐世保レトログラフィ」の企画などの活動を行っていました。

そうこうしているうちに、最初に

配属された窓口から企画部門に異動し、プライベートで関わっていた中心市街地や倭ヶ浦半島の活性化の動きにも仕事として関わることになりました。市役所内外に、たくさんの方の熱い先輩、同志との出会いもあり、夜を徹してのまちづくり議論や計画づくりに、とてもやりがいを感じましたし、市全体の中での大きなプロジェクトにも関わらせてもらうなど働きながらたくさんの方の経験をさせていただきました。一方、自らのリスクでまちのプレイヤーとして活動している方々とは、行政の担当職員としては踏み込めない一線があることも同時に感じていました。また、当時公私ともに忙しく、プライベートで行っていた交点の活動が途切れがちになることにもジレンマを感じていました。

さらに、当時訪れた米国ポートランドにおける小商いを中心とした個人ベースの自由で風通しのよいまちづくりのあり方にも感動し、自らも事業としてまちづくりを行ってみた

気持ちを抑えきれなくなっていました。そこで、「家を買うくらいなら、店を買おう」と妻を説得、妻の個人事業（僕は連帯保証人）として、カフェをオープンしました。

正直、最初の2年間は、あまり記憶がありません。商売、お金を借りること、人を雇うこと、自分の責任のもとプロジェクトを立ち上げること、平行して市役所の仕事を行うこと、これまでの人生で経験したことのないストレスに苦しみました。ふがいないリーダーのもと、現場に立ち、支えてくれた妻や仲間には感謝しかありません。そういった意味で、民間の（特に個人で商売をされている）方へのリスクは増すばかりでしたし、同時に行政の立場でしかないこともたくさんあることに気づかされました。

その後、様々な人に助けられ、なんとかカフェ事業は安定し、市役所も活動の趣旨を理解してくれたことから、仲間たちと法人を立ち上げることにしました。市の仕事、カフェの経営を通じ、公と民、中の人と外の人、



にぎわうかつての朝市（万津町）

高齢者と若者、雇う人と雇われる人：様々な立場や人の間を行き来する中で、それらのものを結びつけられるような事業や場づくりに取り組めたらいいな、と感じたためです。10年がかりでようやく自分のやりたかったことのスタートラインに立てたと、今なら冷静に振り返ることができそうですし、後悔はありませんが、もし、人生やり直せるとして、もう一回やるかと聞かれれば…かなりアヤシイです（笑）。



僕らの住みたい

「みなとまち」をつくる

まちごとホテル

「RESORT」プロジェクト

なんとか生き延びた僕たちの船ですが、法人化を経て新たな挑戦を行うことになりました。これから、佐世保の2つのみなとまちはもつと面白くなるはず。ぜひ見守っていただきたい、応援していただきたいプロジェクトを最後にご紹介させていただきます。

それは、佐世保全体をホテルと見立て、当たり前の暮らしやまちの資源を組み合わせ「リゾート」に変えていく、というプロジェクト。RESORT“です。その第1弾として、万津6区にある古いマンションの空き部屋をリノベーションした限定3室の部屋が9月にプレオープンしました。眼下に佐世保港と米軍基地を臨む全室+屋上サウナ付きのマイクロホテルです。海山に囲まれた佐世保らしさにこだわった立地・物件・内装・アート・風景と、全国的にもま

だめずらしい「I-Tによる無人運用」、「仲間と楽しめるプライベートサウナ」を掛け合わせた結果、ほかのどこにもない突き抜けた客室ができたのではないかと思います。

今後、車やヨットを客室と見立てた「移動する部屋」、併せて、このまちで生活する人たちと交流できる新たな公民館・図書館機能を備えた「まちのラウンジ」などを複数箇所に導入していく計画です。また、万津6区の仲間が、オリジナルのクラフトビールや、ものづくりのラボラトリーを作る企画も平行して進んでいます。

これらのプロジェクトは、これまで佐世保になかった新しい取り組み：というか、タイミングも含めまともな事業者はそもそも手を出さない、ある意味バカな企画だと思っています。しかし、コロナを含む様々な閉塞感に対し、自ら楽しみながら、ちょっとおかしいアイデアを実際に形にしてくことで、まちのムードを変えられたら、そこで得た経験を失敗も含めまことに還元していけたら、と考えチャレ

ンジすることになりました。

僕たちの目指す「みなとまち」は、年齢、性別、人種、職業といった立場を越えて、このまちに関わる誰もが尊重され、フラットな関係を結べる出会いと発見のあるまちです。少なくとも僕たちはそんなまちで生きていきたい。それには、先人たちが積み上げてきた豊かさの上に、今を生きる僕たちがこのまちの文脈に合った新しい挑戦を重ねていくこと、新しい場

を作っていくことが必要だと強く思います。これからこのまちを楽しみ尽くすことで、少しでもまちに恩返しができたらいいな、と願いつつ、現時点の僕たちRESORTのリポートとさせていただきます。

最後まで読んでくださったあなたと、万津6区で、俵ヶ浦半島で、佐世保のどこかで、出会い、語り合えることを心から楽しみにしています！



先行開業したホテル



RESORT 公式ホームページ
<https://www.resortsasebo.com/>





一般社団法人 離島振興地方創生協会の活動支援

十八親和銀行 地域振興部

日本はおよそ7,000の島からなる国で、そこに豊かな自然と食の恵みがあります。そこに住む生産者の方々は、何代にも亘り、この土地で食文化を育んできました。しかし、少子高齢化、人口減少の問題は地方や離島地域の生活基盤を刻々と奪いつつあります。そのような中、離島地域の1次産業の振興を目的に「一般社団法人離島振興地方創生協会」(以下、「離創協」。)が2020年4月に設立されました(ホームページ <https://risokyo.or.jp/>)。

離創協の理事長には中村法道長崎県知事の依頼により、千野和利氏が就任されました。千野氏は、大阪でスーパーマーケットを経営する株式会社阪急オアシスの代表取締役や、一般社団法人全国スーパーマーケット協会の副会長などを歴任され、都市部の食品関連事業者に精通されている方です。

離創協では、長崎県の「対馬市、杵岐市、五島市、新上五島町」の4地域をフィールドとし、次の3点を重点

政策として活動しています。

① バリューチェーンの構築

全国のスーパーマーケット・百貨店・専門店や会員企業と連携し、離島事業者の販路拡大や、海外展開を支援。

② 生産基盤の整備

離島の人口減少を要因とする耕作放棄地が拡大する中で、将来にわたって安定的な生産基盤を、新しい発想で構築。

③ 生活基盤の整備

離島の情報インフラや再生可能エネルギーの活用など、まちづくりの視点に立って、暮らしの基盤整備を実施。

離創協の活動を長崎県、対馬市、杵岐市、五島市、新上五島町の各自自治体が支援をする他、正会員71社、賛助会員63社の計134社(2021年3月時点)の全国各地の企業が支援しています。十八親和銀行でも、地域活性化のために様々な事業・プロジェ





クトに携わっていますが、同じベクトルで進む離創協の活動に共感し、

2020年より離創協の正会員として加盟しました。

当行では、離創協からの依頼を受け、次の支援を行っています。

① 離創協への人材派遣

離創協の活動を支援するため、離創協へ1名人材を派遣し、協会活

動を支援。

② 離島事業者の育成

離島の若手事業者の育成を目的に、対馬、壱岐、五島、上五島の4地域で「オピニオンリーダー講習会」を月に一度、離創協と共同で開催。

③ 各離島の産品を離創協に紹介

離創協に対し、各離島の産品を紹介し、幅広い事業者を支援。

④ 離島への企業誘致

九州を拠点とする企業の工場・施設の一部を離島に誘致。

⑤ 協会活動支援事業者の拡大

長崎県内及び九州エリアの事業者
に協会会員（正会員・賛助会員）への
加盟を依頼。

当行は、離創協と共に離島地域の
活性化のため、これからも積極的に
活動して参ります。本事業に関する
ご質問、ご相談については、下記連絡
先までお願いいたします。



【連絡先】

十八親和銀行 地域振興部

担当: 古瀬(ふるせ)

TEL 095-827-8609(直通)

Mail s-furuse@18shinwabank.co.jp

十八親和銀行が誕生して十月で一周年を迎えました。これを記念して、現在、十八親和アートギャラリーでは、秋季企画展として長崎にちなんだ企画展を開催しています。絵画展示室1では、長崎市出身で“かっぱ”の絵で知られる「清水崑展」を、季節展示室では、江戸時代に土産物として人気を博した「長崎古版画」の特別展示を行っています。

「清水崑展」では、清水崑が晩年に取り組んだ故郷・長崎の行事をテーマにした作品を中心に収蔵する全6点をご紹介します。毛筆の柔らかな線と淡い色彩による、擬人化されたかっぱのユーモラスな作品はあたたかく、観る者を楽しませてくれます。

このほか、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアアイコンなど約140点の常設展示も行っています。

清水 崑(しみず・こん)：1912～1974。長崎市銭座町(現、長崎市天神町)生まれ。本名、幸雄。1931年に上京、上野での街頭似顔絵描きを経て、雑誌や書籍の挿絵を担当する。1934年に吉田貴三郎の勧めで「新漫画派集団」に参加。戦後は政治漫画や風刺画で活躍した他、「かっぱ川太郎」や「かっぱ天国」など“かっぱもの”と称される一連の漫画で人気を博した。

十八親和アートギャラリー

鑑賞
無料



[開館時間] 10:00～16:00(入館は15:30まで)

[休館日] 日・月・祝日、年末年始(12/31～1/3) ※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F TEL.0956-23-4856

西肥バス島瀬バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分

秋季企画展

清水

崑展

2021

9/10

[金]

10/30

[土]

特別展示

長崎古版画



清水 崑「コッコデショ」 紙に墨・着色 120×120cm